

佛律編集 第一卷

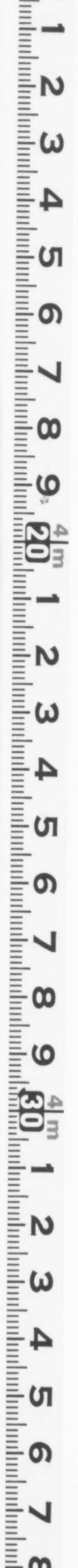
司法部記錄文庫
第五百九十八號
保
四冊
八內

第六號
第一架
第三

司法部記錄課藏書
第一二號

司法部
第八號
寄贈圖書文庫

B900
S 1
35 a





B900
S 1
35 a
[司浩印]

佛國編集遊獵規則

卷一

遊獵規則

萬國各異ナリタル遊獵規則ヲ定ムト雖モ萬國此規則ヲ作ルニ付目的トスル丁ハ皆同一ノ不便ヲ去リ同一ノ便利ヲ獲ントスル丁ナリ故ニ今佛國ニ行ハル、遊獵規則ヲ記述スル前ニ先右規則上ノ丁ニ付各國ニテ避ケント欲セサルヲ得ナル不便及必ス獲ト欲スヘキ利益ヲ畧述スヘシ

各國何レモソノ人民中危儉ニシテ兵器ヲ帶ヒ遊獵スルノ許ヲ與フヘカラサル輩ナキ能ハス故ニ十分危儉ナラザルノ保證アル輩ノミニ遊獵免許ヲ與フヘシ是レ總テ誰ニテモ遊獵スルヲ得ルニハ必ス遊獵免狀ヲ持スヘキト定ムル

規則アル所以ナリ

鳥獸モ亦ソノ國ノ歳入ノ一端ナルカ故ニ遊獵

規則ヲ定メシ者ハ此鳥獸ヲ保存スル丁ニ注意

セサルヲ得サリキ是鳥獸ノ保存ヲ目的トスル

規則多少アル所以ナリ

又遊獵ヲ許スヘキ場所ヲ定メサルヲ得ス且人

民私有ノ地ヲ保護セサルヲ得ス右ノ為メ一箇

ノ土地ノ主人ハ其地ダケノ遊獵ノ主人ナリト

者做スル故ニ凡ソ一地ニ遊獵セントスル者ハ

ソノ地主即ソノ地ノ遊獵ノ主人ノ免許ヲ受ケ

サルヲ得スト定メタリ

鳥獸ヲ保存スルノ必要ナルヨリシテ遊獵スル

ヲ得ヘキ時間ヲ制限スヘキノ丁起リ又農作物

ヲ保護スルノ必要ナルヨリシテ遊獵ヲ始ムル

ヲ許スノ期限ハ作物ノ收入畢リニ後ト定メサ

ルヲ得サル丁トナレリ故ニ右ノ收入ノ時ハ國

々ニ於テ異ナルヲ以テ佛國ニ於テハ毎年諸州

ノ知事各ソノ州ノ為メニ開獵ノ期限ヲ定ムル

丁ナリ

右規則ニ於テ又地主ハ何時ニテモ自分持地内

ニテ遊獵シ及遊獵セシムルノ權ヲ確定セサル

ヲ得サリケリ尤ソノ持地ハ藩園アラサルヲ得

ス

鳥ノ内容鳥ト称スル者即只ソノ國ヲ通過スル

鳥アリ佛國ニ於テハ州知事毎年右鳥ヲ獵スル

為メ別段ノ遊獵期限ヲ定ムルノ權アリ

佛國ニ於テ凡テ地主ハ遊獵ノ免状ナリモソノ
地内ニ於テ有害ノ鳥獸ヲ殺亡スルノ權アリ政
府ハ有害ノ鳥獸ヲ殺ス者ハ勸勵金ヲサレ與
フルナリ

當時佛國ニテ行ハル、遊獵上ノ法度ハ左ノ如
シ

遊獵上ノ法度 一千八百四十四年五月五日定

第一款 遊獵ノ權ヲ行フ事

第一條 誰レニテモ遊獵ノ期未タ開ケス且其

筋ノ官員ヨリ渡シタル遊獵免状ナクシテハ

遊獵スルヲ許サス但後條ニ記スル例外ノ場

合ハ格別ナリトス

誰ニテモ他人ノ持地内ニ於テ遊獵スルニハ

必スソノ主人或ハ主人ノ名代ノ許諾ヲ受ケ

サルヲ得ス

第二條 土地ノ所有人或ハ占有人ハ住宅ニ接

附シ且隣地トノ往来ヲ妨グル間断ナキ藩圍

アル持地内ニ於テ何時ニテモ遊獵ノ免状ナ

クシテ遊獵シ且遊獵セシムルノ權アリ

第三條 州知事ハ各州ニ於テ決定書ヲ以テ遊
 獵ノ開閉ノ期限ヲ定ムヘシ但右決定書ハ少
 氏右開閉ノ期限ノ十日前ニ布告スヘシ
 第四條 各州ニ於テ遊獵ヲ許サ、ル間ハ鳥獸
 ヲ賣リ物ニ出シ賣リ買ヒ持チ運ビ行賣スル
 了ヲ禁ス
 此ノ規則ニ背ク時ハ鳥獸ヲ取上ケソノ極ク
 最寄ノ教育所ヘ之ヲ渡スベシ但縣ノ首府ニ
 於テ右取上ケヲ為ス時ハ居間裁判所ノ上席
 人ノ命令書ヲ以テ之ヲ為シ若シ居間裁判所
 ノ上席人不在ナルカ或首府ナラサル邑ニ於
 テスル時ハ邑知事ノ免狀ヲ以テ此取上ヲ為
 スヘシ

右命令書或ハ免狀ハ右取上ケヲ行フタル役
 人或ハ監守人ノ願ノ上且同人ヨリ規則ニ隨
 ツテ作リシル口書ヲ差進メシ上ニテ之ヲ付
 與スヘシ

右鳥獸ヲ探索スルヲ許スハ只旅店飲食店及
 諸人ノ入ルヲ許ス場所ノニ限ル
 他人ノ持地内ニ在ル雉鷓鴣及鶉ノ雛或卵ヲ
 取リ或破ルヲ禁ス

第五條 遊獵ノ免狀ハ邑知事及郡知事ノ存意
 ヲ問ヒシ上ニテ願人ノ寄寓或本宅アル州ノ
 州知事之ヲ渡スヘシ

遊獵免狀ヲ渡スニハ二十五フランクノ稅ヲ
 取ルベシ但シ右稅ノ内十五フランクハ本政

府一収メ餘リノ十ヲラシクハ前節ニ記スル
存意ヲ出セシ邑知事ノ邑一収ムヘシ
遊獵ノ免狀ハ全ク願人一已ノ用トナスヘシ
此免狀ハ全國中ニ於テ一年ノ間ノミ有効ナ
リトス

第六條 州知事ハ左ノ輩一ハ遊獵免狀ヲ渡ス
ヲ拒絶スルヲ得ヘシ

第一 租稅割付書一書載セラレサル丁年
者或ソノ父或母右割付書一書載セラレ
サル丁年者

第二 罪ノ言渡ヲ以テ刑法典第四十二條
ニ細記シタル諸權ノ内兵器ヲ帶ブルノ
權ノ外ノ權一箇或ハ數箇ヲ剥奪セラレ

シ者

第三 政府ノ官員ニ對シ返逆或ハ暴動ノ
罪トシテ六月以上ノ囚獄ノ刑ノ言渡ヲ
受ケシ者

第四 左ノ諸罪ニヨリ刑ノ言渡ヲ受ケシ
者

不法ノ會合ノ輕罪火藥兵器其他都テ彈
丸等ノ製造零賣頒與ノ罪凡テ口上或ハ
書面ヲ以テ脅迫ヲ為シタル罪穀物ノ運
輸ニ妨ケヲ為シタル罪斬リ或ハ刈ラサ
ル樹木或ハ穀菜ヲ荒シタル罪自然生シ
或ハ人ノ作リタル草木ヲ荒シタル罪

第五 無宿乞丐盜詐盜背信ノ罪ニヨリ刑

ノ言渡シヲ受ケレ者

右第三第四第五節ニ記スル刑ノ言渡シヲ受ケレ者ハ遊獵免状ヲ拒絕スルノ權ハソノ刑ノ期限相過キニ時ヨリ五年後ニ至テ廢止スベシ

第七條 遊獵ノ免状ハ左ノ輩ハ渡スヲ得ス

第六條ト異リ此場合ニ於テハ決シテ遊獵免状ヲ得ス

第一 滿十六歳ニ至ラサル幼年者

第二 十六歳ヨリ二十一歳迄ノ幼者

但シ租税割付書ハ書載セラレタル父或ハ母或ハ後見人或ハ財産代理人ヨリ此幼者ノ為メ願書ヲ出サ、ル時ヲ云フ

第三 治産ノ禁ヲ受ケレ者

第四 邑及公建造所ノ田舎監守人或ハ森林監守人但シ政府ノ森林監守人及漢鈞監守人モ同断ノ事

第八條 遊獵免状ハ左ノ諸人ハ與フルヲ得ス

第一 刑ノ言渡シヲ受ケレヨリシテ兵器ヲ帶フルノ權ヲ剥奪セラレシ者

第二 此法度ニ定ムル所ノ諸罪ノ内一箇ニヨリ言渡シタル刑ヲ謹守セサリシ者

第三 凡テ刑ノ言渡シヲ受ケ政府ノ監察ヲ蒙リ居ル者

第九條 遊獵ノ開ケル時間ハ遊獵ノ免状ヲ受ケシ者ハ己ノ持地或ハ他人ノ持地ニ於テ晝

間砲撃ノ獵或ハ窮追ノ獵ヲ為スノ權アリ但
 シ他人ノ持地ニ於テ獵スルニハ此地ニ於テ
 獵スルノ權アル者ノ兼允ヲ受ケサルヲ得ス
 此他ノ遊獵ノ諸方法ハ家免ヲ捕ルニ用ユル
 フユレ^ル但^ル用ユル^ル免^ルヲ捕^ル免^ル但^ルシ
 捕^ル袋^ニ用^ル外^ハ之^ヲ禁^ス
 然レ氏州知事ハ州議院ノ相談ノ上決定書ヲ
 作リ以テ左ノ諸件ヲ定ムヘシ

第一 鶉ノ外ノ諸客鳥ヲ獵スル時節及ヒ

右獵ノ仕方

第二 沼池河川ニ於テ水鳥ヲ獵スルヲ得

ヘキ期限

第三 土地ノ所有人占有人或ハ借地人何

時ニテモ已ノ持地内ニテ獵スルヲ得ヘ
 キ有害ノ鳥獸ノ種類及ヒ此權ヲ行フニ
 要用ナル條件尤已ノ持地ニ害ヲ為ス猛
 獸ヲ銃器ヲモ用ヒテ追拂ヒ或ハ殺亡ス
 ル^ル付地主或ハ借地人ノ有スル權モ
 勿論ノ^ル

州知事ハ左ノ件々ノ為メニモ亦決定書ヲ為
 スヲ得ヘシ

第一 鳥ヲ殺亡スル^ルヲ豫防スル為メ

第二 有害ノ獸ヲ殺亡スル為メ^ルア^ンレ
 一^ノブリ^エ一^ノ免^ル獵^ル犬^ニ用^ルヲ用ユルヲ許ス為

第三 雪天ニ獵スルヲ禁スル為メ

第十條 皇帝ノ命令書ニ於テ遊獵規則ニ背キ
シ罪ヲ證スル口書ヲ作記セシ監守人及ヒ取
締兵ハ與フヘキ賞金ヲ定ムヘシ

第二款 遊獵規則ニ背キタル罪ヲ治ス
ル諸刑

第十一條 左ノ輩ハ十六フヲシヨリ百フヲ
シク迄ノ罰金ノ刑ヲ受クヘシ

第一 免狀無クシテ遊獵セシ者

第二 其主人ノ承諾ヲ得スシテ他ノ持地
ニテ獵セシ者

若シ右ノ罪ハ未メ作物ヲ取収メサル地ニ於
テ犯シ或ハ住宅ナケレ氏隣地トノ往來ヲ妨

クル間断ナキ藩圍アル地ニ於テ犯セシ時ハ
ソノ罰金ヲ倍スヘシ

走犬ノ已ノ主人ノ持地ニテ見付シ鳥獸ヲ追
ヒナカラ他人ノ持地ヲ通過セシ事ハ遊獵上
ノ罪ト看做スヘカラス尤是事件他人ニ損害
ヲ掛ケシ時其者ヨリ訴訟法ニ隨ヒ償ヲ求ム
ルノ權アルハ勿論ナリ

第三 容鳥水鳥雪天ノ獵追兎犬ニ關スル
州知事ノ決定或鳥ヲ亡滅スル事及ヒ有
害ノ獸ヲ亡滅スル事ニ關スル決定ニ背
キシ者

第四 他人ノ持地内ニ在ル雉鷓鴣或ハ鶉
ノ卵或ハ雛ヲ取り或ハ破リシ者

第五 國ノ森林支配ノ管轄ニ属スル森林
 中ニ於テ或ハ邑或ハ公建造所ノ利益ノ
 為メニ遊獵ノ權ヲ貸シタル土地ニ於テ
 ソノ遊獵ノ權ノ借人已ノ遊獵ニ付テノ
 義務簿ノ條件ニ背キシ者但シ佛國實ニ於
 テ但シ佛國實ニ於
 如ル者遊獵ノ權ヲ貸スナリ何程カノ地ヲ
 借ル此ハ遊獵ノ義務ヲ蒙ルナリ
 借付此ハ遊獵ノ義務ヲ蒙ルナリ
 第十二條 左ノ輩ハ五十フランクヨリ二百フ
 ランク迄ノ罰金ノ刑ヲ受ケ其外ニ六日ヨリ
 二月迄ノ囚獄ノ刑ニ處セラレハシ
 第一 禁シタル時間ニ獵セシ者
 第二 禁シタル獵具或ハ器械ヲ用ヒ或ハ
 第九條ニ許ス仕方ノ外ノ方法ヲ以テ夜

間獵セシ者

第三 本宅外ニ於テ鳥網或ハ他ノ禁シタ
 ル諸獵具ヲ占有スル者或ハ之ヲ帶ヒ居
 ルヲ見付ケラレシ者
 第四 獵ヲ禁スル時間ニ鳥獸ヲ賣物ニ出
 シ賣リ持運ヒ買ヒ或ハ行賣セシ者
 第五 鳥獸ヲ醉ハシメ或ハ之ヲ殺スノ質
 アル藥物或ハ餌ヲ用ヒシ者
 第六 呼鳥笛或ハ鳥四等ヲ用ヒテ獵セシ
 者
 夜間他人ノ持地内ニ於テ且第二節ニ別段記
 シアル仕方ノ一ヲ以テ獵セシ者若シ顯レタ
 ル兵器或ハ隠レタル兵器ヲ帶ヒシ時ハ此條

ニ記スル刑ヲ倍シテコレニ受ケシムヘシ
若邑ノ田舎監守人或ハ森林監守人并ニ政府
及ヒ公建造所ノ森林監守人罪ヲ犯ス時ハ第
十一條及ヒ此條ニ記スル刑ノ最重限ヲ適行
スヘシ

第十三條 主人ノ承諾ナクシテ他人ノ持地ニ
入り獵セシ者ハ若シソノ地ニ人ノ住シ或ハ
住スル家宅アリテ且隣地トノ往來ヲ妨クベ
キ間斷ナキ藩圍アル時ハ五十フランクヨリ
三百フランク迄ノ罰金ノ刑及ヒ六日ヨリ三
ヶ月迄ノ囚獄ノ刑ニ處セラルヘシ
若シ此ノ罪ヲ夜間犯セシナラハソノ犯人ハ
百フランクヨリ千フランク迄ノ罰金ノ刑及

ヒ三ヶ月ヨリ二年迄ノ囚獄ノ刑ニ處セラル
ヘシ尤ニツノ場合共時宜ニヨリ刑法典ニ於
テ之ヨリ重キ刑ヲ言渡スヘキ時ハ勿論之ヲ
言渡スヘシ但シ若シ他罪アリ為メ時ハ刑法典
勿論ナリスハ

第十四條 左ノ場合ニ於テハ前三條ノ刑ヲ倍
シテ言渡スヘシ

ソノ犯人ハ再犯ナリシ時
ソノ犯人ハ面体ヲ變シ或ハ之ヲカクセシ
時

ソノ犯人ハ偽名ヲ用セシ時
ソノ犯人ハ他人ニ對シ暴動ヲ行セシ時
ソノ犯人ハ脅迫ヲ為セシ時

尤若國法ニ於テ之ヨリ重キ刑ヲ言渡スヘキ時ハ勿論之ヲ言渡スヘシ

第十一條ニ定メシ場合ニ於テ本人再犯ナル時若シ其者ハ前ノ刑ノ言渡ヲ謹守セサリシナラハ六日ヨリ三ヶ月迄ノ囚獄ノ刑ヲ適行スルヲ得ベシ

第十五條 罪ヲ犯シタル時ヨリ前十二月内ニ既ニ此法度ニヨリテ刑ヲ言渡サレタル事アル時ハ再犯ナリトス

第十六條 凡ソ刑ノ言渡シ書ニ於テ鳥網及ヒ其他諸獵具ノ没収ヲ命スヘシ右言渡書ニ於テ其外又禁シタル獵具ノ破碎ヲ命スヘシ右言渡書ニ於テ又兵器ノ没収ヲモ言渡スヘシ

シ但シ獵ヲ許ス時間遊獵免狀ヲ帶ヒシ者ノ罪ヲ犯セシ時ハ例外トス

若ソノ鳥網武器或ハソノ他ノ諸獵器ヲ取上サリシ時ハ犯人ハ之ヲ差出シ或ハソノ價ヲ拂フベキ言渡ヲ受クヘシ但シソノ價ハ刑ノ言渡書ニ於テ定ムル所ニ隨フヘシ而シテ右價ハ五十フランクヲ下ルベカラス

跡ヲ失ヒシ犯人ノ弃置キタル武器或ハ他ノ諸獵具ハ之ヲ取上ケテ掛リ裁判所ノ書記局ニ置クヘシ若シ之ヲ没収シ或ハ破碎スヘキナレハ口書ヲ見シ上ニテソノ没収或ハ破碎ヲ命スヘシ

如何ナル場合ニ於テモ償金ノ分量ハ裁判所

ノ量價ニ任スヘシ

第十七條 此法度尋常刑法典或ハ格別ノ法度

ニ於テ定メタル数罪ヲ兼子犯セシノ證アル

時ハソノ諸刑ノ内最重ナル刑ヲ言ハタスヘ

シ

罪ノ口書ヲ申立テタル後ニ為シタル所行ニ

ヨリテ蒙ルヘキ刑ハ本罪ノ刑ト合セテ之ヲ

言渡スヲ得ヘシ但シ再犯ノ刑ニ抵觸スヘカ

ラス

第十八條 此法度ニ定ムル罪ニヨリ刑ノ言渡

ヲ受テタル場合ニハ裁判所ヨリ多少ノ時間

ソノ犯人遊獵免狀ヲ受クルノ權ヲ奪フヲ得

ヘシ但シ此時間ハ五年ニ過クヘカラス

第十九條 第十條ニ記スル賞金ハ罰金ノ産利

中ヨリ差引クヘシソノ餘リ罰金ハ右罪ヲ犯

シタル場所ヲ管轄スル邑ヘ給スヘシ

第二十條 刑法典第四百六十三條ハ此法度ニ

定ムル罪ニ適用スヘカラス

但シ刑法典第四

百六十三條ハ罪

ノ輕キ場合ヲ申述スヘ右場ト合ニヨリ

典ニ定メシ罰方何程減スヘシト定メシ

十リ故ニ遊獵上ノ罪ハ決シテ

輕フスルヲ得スト云フ意ナリ

第三款 遊獵上ノ罪ニ付訴訟及裁判

第二十一條 此法度ニ定ムル罪ハ口書或ハ届

書ヲ以テカ或ハ右口書及々届書ノ有無ヲ詢

セス證人ヲ以テ證セラル、ヲ得ヘシ

第二十二條 邑知事副邑知事取締長取締兵ノ

士官軍曹或ハ伍長取締兵森林監守人漢釣監
守人田舎監守人或ハ人民ノ誓ヲ殺シタル監
守人ノ口書ハソノ真正ナラサルノ證アル迄
ハ直正ト者做スヘシ

第二十三條 不直稅搦り役人及ヒ都府輸入稅
搦り役人輩各ソノ職分ノ制限ニ從ヒ第四條
第一節ニ定ムル罪ヲ探索シテ之ヲ證スル時
ハ右役人ノ口書ハソノ真正ナラサルノ證ア
ル迄ハ真正ト者做スヘシ

第二十四條 罪ヲ犯セシ時ヨリ二十四時内ニ
監守人ノ口書ハ之ヲ記セシ本人已ノ住所ア
ル邑或ハ右ノ罪ヲ犯セシ邑ノ居間裁判役或
ハソノ代役カ邑知事或ハ副邑知事カノ前ニ

於テ右口書ノ真ナルヲ證言スヘシ但シ若シ
此ノ如クセサルニ於テハ其口書ハ無効ノ廢
物トナル

第二十五條 犯人ヲ即時ニ取捕ヘ或ハソノ武
器ヲ取上ルヲ得ス然氏若シソノ犯人ハ面体
ヲ寢シ或ハ隠セシカ若シソノ姓名ヲ告クル
ヲ拒絶セシカ或ハ若シソノ本宅知レサル時

ハ即時ニ之ヲ邑知事或ハ居間裁判役ノ前ニ
連レ來ルヘシ其時邑知事或ハ居間裁判役ハ

犯人ノ身上ヲ聞糺スヘシ此條人ヲ見レハ決
得ス右ニ指シタル場合ニ於テ邑知事或ハ居
間裁判役ノ許ヘ連レ行ク時モ同官負ハ犯人
速ニ住居ヲ放チ還スハ

第二十六條 此法度ニ定ムル諸罪ハ法度各代

已ノ職掌トシテ之ヲ訴訟スヘシ尤治罪法典
 第百八十二條ニ於テ損害ヲ受ケシ者ハ與フ
 ル權ニ抵觸スヘカラス
 然氏ソノ主人ノ免許ナリシテ他人ノ地内ニ
 テ獵セシ場合ニ於テハソノ罪ハ第二條ニ記
 スル如キ藩園アリテ且居宅ニ附接スル地或
 ハ未タ作物ヲ收入セサル地ニテ犯セシニ非
 サレハ右ニ關スル者ヨリ訴訟ヲ出サ、ル前
 ニ法度名代已ノ職掌トシテ此罪ヲ訴訟スル
 ヲ得ス
 第二十七條 數人相トモニ遊獵上ノ罪ヲ犯カ
 セシ時ハ右ノ者ハ相トモニ連帶シテ罰金償
 金及ヒ裁判ノ費用ヲ出スノ言渡ヲ受クヘシ

第二十八條 父母後見人主人及ヒ委任ハソノ

未替ノ幼年ナル兒子已ト同居スル受護者奴
 僕或ハ手代等ノ犯シタル遊獵上ノ罪ニ付ソ
 ノ損害ノ責ニ任スヘシ尤モ他人ノ罪タルノ
 證アル時ハ訴訟スルノ權アルハ勿論タリ
 右ノ責ニ任スル事ハ民法典千三百八十四條
 ニ從ヒテ之ヲ定メ且償金及ヒ裁判ノ費用ノ
 ミニ適行スヘシ尤決シテ禁錮ヲ生スヘカラ
 ス但シ第一千三百八十四條自巳ノ所行ニヨリ
 ノ人ニ加ヘタル損害ヲ引受ヘキ者又ハ自巳ノ
 管守ニ非ラズ物ヲ毀スル者ノ所為ニヨリ又
 フル損害モ亦之ヲ償フ所為ニヨリ又ハ自巳ノ
 故ニ父ノ幼年ノ又子ノ死去ニ加ヘタル後
 同居ノ父ノ幼年ノ又子ノ死去ニ加ヘタル後
 シテ

家長及
クタル者ノ其使用ヲスル者ハ其僕婢及ヒ人使用
ヲ受クタル者ノ其使用ヲスル者ハ其僕婢及ヒ人使用
ノ加償ハタル者ノ其使用ヲスル者ハ其僕婢及ヒ人使用

授業者
フ授業者ハ其受業者及ヒ加工作タテ
ノ授業者ハ其受業者及ヒ加工作タテ
ノ授業者ハ其受業者及ヒ加工作タテ

損害
フ損害ハ其受業者及ヒ加工作タテ
ノ損害ハ其受業者及ヒ加工作タテ
ノ損害ハ其受業者及ヒ加工作タテ

第二十九條

此法度ニ定ムル罪ニ關スル訴訟

ハ凡テソノ罪犯ノ日ヨリ三ヶ月ノ時間ヲ歴
ルニ於テハ廢物トナル

第三十條

此法度ノ規則ノ内遊獵ノ權ヲ行フ

了ニ關スル規則ハ帝位ノ所有地ニ適用スベ
カラス此ノ地内ニ於テ罪ヲ犯ス者ハ第二款

及ヒ第三款ニ從ヒテ訴訟シ且罰スヘシ

第三十一條

千八百十二年五月四日ノ布令及

ヒ千七百九十年四月三十日ノ法度ハ之ヲ廢
ス

又廢スヘキハ此ノ法度ノ定ムル所ニ反スル
法度州知事ノ決定書皇帝ノ布令書ナリ

○遊獵規則見込

○遊獵規則ニ付今度見込書差出ノ命ヲ蒙リタ
 リ然ルニ外國人遊獵規則ハ唯ニ外國人耳ニ
 ニ免行ス可クメ日本人ニハ兼用ス可キ規則
 ニ非スト思ハル因テ日本人ニ施行スル規則
 ハ爰ニ論セスシテ即チ尤ニ愚案ヲ呈ス

第一條

軍銃ヲ用ヒテ遊獵スルヲ禁スルハ如

何ナル利害得失アリヤ唯ニ「シヤスポ」軍銃

ニ鉛彈ヲ込ミ用ユルニ獵銃ヲ以テ遊獵スル

ヨリ鳥獸ヲ多ク害スルト云フニモ有ラザル

可シ若シ此ノ制禁ヲ日本人ニ以テスル時ハ

当理ト云可シ何トナレハ兵士及ヒ其ノ他軍

銃ヲ所持スルノ權ヲ有スル者ニハ公務ノ外

之レヲ使用スルヲ禁スルヲ必要タレハナリ
然レシテ外人ニハ之レヲ適理ナリトス可カラ
ス何トナレハ軍用獵用トモニ使用ナル精良
ノ銃器ヲ發明スルヲアル故ナリ○外国人ニ
之レヲ使用スルヲ禁ス可キヤ又後々其ノ
規則ヲ改削ス可キヤ又々規則ヲ改メズレテ
外人ヲメ犯サレム可キヤ

○此ノ條ニハ唯ニ銃獵ノ事耳ニ見エ然レハ犬
或ハ鷹等ヲ以テ獵スルヲノ制禁モ包含スル
ヤ右等ノ制禁ノ時限ナキハ人ノ能ク知ル所
ナレハ我輩ニ於テモナキヲト思フナリ

第一條ノ見込條案

第一條 遊獵ハ銃獵犬或ハ鷹ヲ以テ鳥獸ノ狩

スルヲ云総テ他ノ獵法ハ嚴禁ス若シ之レヲ
犯ス者ハ三圓二十錢ヨリ二十四圓迄ノ罰金ヲ
科ス可シ

第二條 (日本地方官ト云語ヲ以テ其端ト云論
ニ改ム可シ)

第三條 外國公使ニ於テハ己レノ國民ヲメ直

ニ願テ日本地方官ニ出シ遊獵鑑札ヲ受ケシ
ムルヲ肯セザル可シ殊ニ從來ノ條約通り
ノ帝國ニテハ外人ハ日本ノ何レノ公ケノ
事業ニ就テモ管係ス可カラサルヲ注意ス

可ク又々府縣ヨリハ免許鑑札ヲ渡サシム可
カラス何トナレハ府縣ニ裁判スルヲ及ヒ免
許鑑札ヲ渡スヲニ付テハ願及ヒ渡ス可キヤ

否ヤラ熟知スルノ權ヲ許スニ似タリ然ルニ
條約ノ原意ニ因レハ其領事ヨリ耳ニ此ノ願
ヲ為スノ權アリ

○此條ノ罰金ハ多クハ半高ニ減スルハ未タ
少シトセス是レ鑑札ヲ帶往セサルハ全ク失
意ノ輕易ナルモノニ聊カ人ニ害スル可キ
キ故也

第三條ノ見込條案

第三條 総テ外国人ノ遊獵鑑札ヲ受ケント欲
スル者ハ願ヲ其ノ領事ニ為ス可シ其ノ身分
等取調ノ上若シ本人此ノ法律ノ規則及ヒ其
ノ國ノ獵律ヲ兼諾スルハ領事文面等檢閲
シテ其ノ願書ヲ地方官ニ差出ス可シ

○免許鑑札ハ領事ノ証印シタル本人ノ願書
ヲ受取タル時ヨリ四十八時間ニ渡々サル可
シ
○免許ヲ得タル者ハ其ノ鑑札ヲ帶往セスメ
遊獵スルヲ得ス若シ之レヲ犯ス者ハ八十戈
ヨリ五圓マテノ罰金ニ処セララル可シ

第四條 (意存無シ)

第五條 此ノ條中一期限ノミ効アリトハ他國

ノ法トハ表裏セリ譬へハ若シ三月十五日ニ
一箇ノ獵人日本ニ着シ残り十五日間遊獵セ
ント欲スルハ一鑑札ヲ請ヒ又々其ノ人十
一月二十五日ニ出帆スルニ付前ニケ月遊獵
セント欲セハ再ヒ鑑札ヲ申請ケサルヲ得ス

然レハ半期限ニ遊獵ヲ為サスシテ再度鑑札
料ヲ拂フフハ実地ニ施行シ難カル可シ

第五條ノ見込案

第五條 免許鑑札ハ一人一己ノ用トナス可ク
メ貸借或ハ賣買スルヲ許サス且之レヲ渡シ
タル日ヨリ一ケ年ノ間効アリトス若シ之レ
ヲ犯ス者ハ第一条ノ罰金ヲ科ス可シ
○獵ノ閑閑ハ毎歳各縣ニ於テ地方官ヨリ期
限ヲ定ム可シ閑獵ノ時間ハ六ケ月ヨリ十
カル可カラス

第五條 惣シテ日本國ノ張大ナル凡ソ緯度三
十一度ヨリ四十五度マテ凡ソ八百里ニ南
北気候ノ異変大ナリ因テ鳥菱等同時ニ巢ヲ

造ルアリ渡リ或ハ帰ルアリ然レハ獵ノ期限
ハ一ト通ニ定ム可ラス地方ノ景況ニ從ヒ期
限ヲ定ムルヲ要ス可シ又殊ニ長崎ヨリ函館
マテハ常ニ秋収ノ時同カラス

第六條 (論無シ)

第七條 (同上)

第八條 右ノ輩ニハ領事ヨリ免許鑑札ヲ渡ス
可カラス

第一、十五歳未満ノ者

第二、白痴瘋癲等人事ヲ辨セサル者

第三、此律ニ因テ定メタル犯罪ノ何レヲ尚
ハス違犯レタル罪ノ言渡ニ不服レタル者

(意味ハ先ノ見込ニ変ルトナシ)

第四ニ其ノ国ノ法律ニ因テ權利ヲ失スル
罰ヲ受クル者

第九條 第十條 此兩條ヲ見ルニ此ノ遊獵ハ
說理上ニハ免許セラレ實際ニテハ何レノ
場所ト虽モ制禁セラル、ニ似タリ

○先ツ閑港場ニ於テハ人家ヲ離ル、一六十
間ノ場所ヲ見当ル、甚々稀ナル可シ又水陸
田野林等ニテ制禁セラル、其ハ遊獵スル、
弥ニ難シ元来何レノ樹林ニモ所有主アリ其
ノ他野林中最も屢ニ社寺等見当ル、一アリ社
寺ハ即チ人家ニ同シ○其他野鳥ヲ見当ル
所トレ何トナレハ殆ント常ニ人家ニ近キ場
所ニ於テ鳩鶉等最見当ル、十ク若シ偶然何レ

ノ支障モ無キ場所ニ至ルトモ多分銃獵制禁
ノ札掲ケアル可シ

○各閑港場ニ居住スル僅二十名計リノ外国
ヘノ獵スル者ニ勸シテ如此キ十全ノ預防法
ヲ必要ス可キヤ各閑港場ニ凡ソ二十名許リ
モアラシ然レモ毎日遊獵スル者稀ナル可シ
又夕遊獵者ニ少シク勸励セラル所アルカ
又ハ田畑ノ所害トナル鳥類ヲ狩リテ農事ヲ
助クルニ非レハ右人員ニ平均スルモ數十町
四方ニテ僅カ三羽ツ、ニモ當ル可カラズ
○仙園及ヒ一般政制ニ於テ凡ソ獵スル者ハ
己レノ所有地内ニ限レハ獵スルノ權ナシ又
他人ノ所有地ト虽モ其ノ所有主ヨリ免許ヲ

得タル上ハ其ノ地ニ於テ獵權ヲ得可シ總シ
テ此ノ免許ヲ得タル者ハ其ノ地内一田及ヒ
人家アル場所ト虽ヒ獵スルヲ得ルナリ然
ルニ此ノ法ハ日本國ニハ施行ス可カラス何
故ナレハ外國人ハ未タ所有主トナルヲ得
サル耳ナラス諸地ノ所有主ト總テ交際ヲ禁
止セラル、ヲ以テナリ因テ他國ノ法律ニ因
リ尚ホ寛裕ノ法ヲ加ヘ改定シテ可ナランカ
○官若シ農民ヲメ未タ嘗テ受ケサル所ノ苦
難難無カラシメハ必ス法律ノ目途ニ達スル
ヲ得シカ殊ニ外國人ノ事ニ就キ未タ嘗テ農
民ヨリ訴出タルトナキニ非スヤ

第九條見込ノ條案

第九條 左ノ件ニテ犯シタル者ハ十田以上ニ
十田迄ノ罰金ヲ科ス可シ

第一 府ハ勿論市街或ハ村落中ニテ獵シタ
ル者

第二 獵ヲ為ス時故心ニテ畑樹木菓物及ヒ
収獲物ニ害ヲ為シタル者

第三 人家及ヒ柵籬等ニ損害ヲ為シタル者
第四 不注意ニ因テ人ニ損傷ヲ掛ケシ者

但シ彼犯人ヨリ請求シタル損失償金
或殺傷ノ場合ニ於テ其ノ國ノ法律ニ
因テ言渡サレ可キ至重ノ罰ハ例外ナ
リトス

第十條ノ意右九條中ニ包含ス

第十一條

鑑札ヲ検査スルヲ乞ハレシキ何人ニ對シテモ拒ムトナク指示スルノ規則ハ行ハル可カラス惣シテ銃器ヲ携ユル者ヲ見テ免許鑑札ノ検査ヲ受クルトハ外国人決シテ肯ス可ラス第一日本政府ヨリ外国人ヲノ之ニ徇守セシムルヲ得ス

○若シ検査スルヲ否マハ無鑑札ノ者ト見做シ第二條ニ依テ処断スト云條ハ第三條ノ意ト違反スルナリ

○免許鑑札ヲ現示スルト拒ムキハ無鑑札ノ者トセス唯ニ鑑札ヲ帶往セスシテ遊獵獵ニ及ル者トス可シ

○外国人ノ國語ニ通セサル者ト選卒ノ仙英

独等ノ語ヲ知ラサレ者トノ對話ナレハ如何シテ外国人ノ鑑札ヲ示サ、ルハ失念シテ帶往セサルモノカ又ハ聽煩セサルモノカヲ密ニ知ルトヲ得可キヤ

第十一條見込案

第十一條

總テ遊獵スル者ハ徽章服ヲ着ケタル選卒官吏又ハ免許鑑札ニ回載シタル雛形ノ賞牌等ヲ所持シタル遊獵監守人ヨリ初テ鑑札ヲ示ス可キト請ハレタルヤハ直チニ所持之免許鑑札ヲ現示ス可シ

但シ選卒官吏又ハ監守人ヨリ前以テ賞牌等ヲ遊獵者ニ示ス可シ

若シ鑑札ヲ示スト拒ム者ハ鑑札ヲ帶往セ

サル者トメ第ニ條ニ後ヒ罰ス可シ

第十二條 第九條ト此ノ條ヲ以テ比考スルニ

若シ万一或ル人不幸ニメ僅カ十二ヶ月内ニ

十度ヒ規則ヲ犯シタル片ハ三万七千二百四十

ノ罰金及ヒ百二十八年ノ禁錮ニ処セラル可

シ然ル片ハ必然法律家ノ本意ヲ失ス可シ

第十二條見込案

第十二條 第一條第二條第三條第九條ニ因テ

設定シタル罰ハ再犯ノ場合或ハ犯人姓名ヲ

偽テ或ハ人ニ對シテ暴行又ハ脅迫シタル片

陪セラル可シ

罪ヲ犯シタル時ヨリ十二月内ニ此ノ

諸規則ニ犯ス者ヲ再犯トス

第十三條 此ノ條ニ因テ見レハ諸物ヲ取揚ク

ルヲハ領事裁判所ヨリ他ノ筋ヨリ言渡サル

、カ如シ之レ行ハル可ラス

第十三條見込案

第十三條 此ノ規則ノ何ノ罪ヲ向ハス犯シタ

ル片ハ諸物ヲ取揚ルヲ其ノ犯人ノ國法ニ

因テ別ニ言渡サル可シ

第十五條 可ナリ

第十六條 此ノ條ハ第九條ノ次ニ置ク可シ

同見込案

第十六條 夜間一錠獵スル者ハ何因何戈ヨリ

ニ近ノ罰金ニ処ス可シ

○此ノ律ニ因テ罰シタル控罪ノ内何レヲ犯

ス凡夜中ナルキハ其ノ罰ヲ陪ス可シ
但シ日没ヨリ日出マテヲ夜ト云フ

(第十七條) ハ第十二條ニ包含スルヲ以テ廢シ

テ可ナラン

○我輩如斯ク見込ヲ差出スト金凡罰金高ノ多
少ニハ注意ヲ加ヘス然シ第九條ノ罰金ハ殊
ニ莫大ナリ○又夕禁錮ノ一件ハ原ヨリ領事
ト云亡其ノ國法ニ因テ設定シタル場合ノ外
決シテ言渡ヲ為スヲ得ス

○又爰ニ注意ス可キヲアリ總テ改正ニ於テ獵
律ヲ嚴密ニ建タル所以ハ全ク免許ヲ得スシ
テ猥リニ獵スルヲ付鳥獸ノ滅尽ヲ防カニ
為ナリ因テ現今日本國內ニ離散シタル僅カ

ノ外国人ニ付左程若慮スルニ足ラス然シ今
外国人ニ對シテ嚴酷ニ法律ヲ設ケハ却テ裁
判上ニ於テ不都合ヲ生ス可シ是レ細少ノ一
事ヨリ竟ニ至大ノ難事ニ及フ間ニ有ルモ
ノナレハ之レ甚々注意ス可キ事ト察スルナ
リ

三月十七日

ブスケ誌

鳥獸獵

○千七百八十九年第八月十一日及第九月十一日及第十月十一日及十一月十一日及十二月十一日及第三日決定ノ律

第三條 獵及従来建設ノ獵場ニ就テ取除ク可キ律ハ廢棄セリ物惣シテ所有主ハ一般ノ安寧ニ関シカメテ警律ニ従ヒ己レノ所有地ノ諸鳥獸ハ獵リ盡シ或ハ獵リ取ラシムルヲ得可シ

○第五年アリユウキヨハ十九日決定ノ田圃ニ損害スル獸類ヲ獵ル事

第一條 「ワシテニユル」ニ二十八日規定ノ總テ國民ニ属シタル山林ニ於テ獵ノ制禁ハ従前ノ如ク存シ置可シ

第二條 然レ凡国民ニ属シタル山林及ヒ邑里

ニ於テ各三箇月若クハ切要ナレハ数々大獵

ニテ獵ハ獸類ヲ撰マスメ又ハ小獵ハ小獵ハ獸ヲ指

ルシテ獵フヲ許ス就中狐狼狸貉及其他損害ヲ

為ス獸ヲ獵ス

第三條 凡ソ諸獵ハ郡ノ山林監守ノ請ヒトカ

ントニ郷ヲヨリノ請求ト一致ノ上其縣廳ヨ

リ免許ヲ下ス可シ

第四條 諸獵許可ヲ得シ上ハ山林監守「カント

」ノ行政ト一致シ獵ノ期日及ヒコレニ會合

スル人負等ヲ規定ノ後个之ヲ支配管督シテ

獵ヲ行ハシム

第五條 郡ノ司政官副縣令邑長等ニ於テ獵

仲間及其他獵ノ方法ヲ心得タル平民へ獵業

ヲ許スノ權ヲ持ス都テ獵夫ハ山林監守ノ立

會ニテ差図管督ヲ受ケ獵ヲ行フ可シ

第六條 各獵ノ調書ニハ其獲物ノ負數及其種

類ヲ認メ其略書ヲ大藏卿ニ差出ス可シ

第七條 共和政第三年第六月十一日ニ獵夫ハ

褒賞金ヲ與フ可キ布告アレハ人民ヨリ願立

タル拾別ノ獵ニ於テ獲シタル獸ハ官ノ吟味

ヲ得ニ為メ其獸ノ有様ヲ認メ同ク大藏卿ニ

差出ス可シ

政府ニ属スル山林ノ獵ニ関シタル于ハ

百十四年第四月二十日ノ規則

第三條 国主ノ森林ニ於テハ上下ノ差別ナク

牡鹿牡鹿ヲ捕獲シ或ハ殺ス丁嚴禁タリ

第六條 獵ニ二種ノ免許アリ則銃獵ノ免許捕獵ノ免許ナリ

第八條 山林惣轄人及山林監守ハ獵ノ警察ニ於テ其法律及規則ノ精密ニ行ハル、カラ能ク注意ス可シ

獵ノ警察ニ就テ千八百四十四年第五月三日及四日決定ノ法律

第一款

獵律ノ布告

第一條 未タ開獵ノ期至ラス且ツ獵ノ官許ヲ得サル者ハ一人タリ凡獵スル丁ヲ得ス他人ノ所有地ニ於テ其主又ハ其假有人ノ承諾ヲ

得スメ獵ヲ為スノ權ヲ持スル能ハス

第二條 所有主或ハ假有人ハ其地面ニ壁牆ヲ結團シテ隣地トノ通路ヲ閉塞シタル其團中ニ於テハ何時トテモ獵シ又ハ人ニ獵ラシムル丁ヲ得可シ

第三條 縣令ハ決議ニ因テ少ク凡十日以前ニ各縣内ニ獵業開閉ノ期日ヲ布告ス可シ

第四條 各縣内ニ於テ未タ獵ノ免許布告ナキニ鳥獸ヲ賣買シ或ハ他邦へ之ヲ輸出スル丁嚴禁タリ

此規則ヲ犯ス片ハ忽チ其鳥獸ヲ剥奪メ最近ノ貧院ニ渡ス可シ若シ此事件「カント」ノ首府ニ於テ有ラハ總テ治安裁判官ノ命ニ出ヘ

シ又治安裁判官欠官アル時カ又ハ首府ノ外
「コムミュン」ニ於テアル時ハ此命令邑長ノ推ニ
在リ

惣シテ此令推ハ其剥棄ヲ取行ヲ役員カ又ハ
監守人ノ上告及ヒ法則ノ如ク認メタル詔書
ノ差出ニ因テ申渡サル可シ

鳥獸ノ搜索ヲ為スニハ旅亭食肆及市場ヨリ
ハ平常ノ人家ヲ探ルヲ最要ナリトス

他人ノ所有地ニ於テ山、鷄、雉、鶉ノ卵及「クローウ」未
巢中ニ在ル初生
雛鳥ヲ云フヲ取り或ハ毀ツテ制禁タリ

第五條 獵ノ免許ハ邑長及副スベツテ縣令ノ議案ニ因
テ縣令ヨリ渡サル可シ惣シテ獵ノ免許ヲ請
フ者ハ各其管内ニ住家ヲ持ツ可シ獵ノ免許

ヲ受ルニハ利益トメ十五「フランク」花ニ此條
ノ前節ニ記シタル邑長ノ所轄ノコムミュンノ
利益トメ十「フランク」ノ高ヲ納ム可シ
獵ノ免許鑑札ハ現人ニ渡サル可クシテ其鑑
札ハ全国中ニ通用シ總テ一年間ヲ以テ其限
トス可シ

第六條 縣令ハ左ニ記列シタル事件ヲ犯シ刑
ヲ受タル者ニハ獵ノ免許ヲ拒ムヲ得可シ
第一ニ現在同籍ニ記載セラレサル丁年二歳
以上ノモノ或ハ其父母ノ収稅簿ニ載ラ
サル者

第二ニ刑律第四十二條中ニ陳列シタル内ノ
一箇ノ民推ヲ官裁ニ因テ剥棄サレタル者ニ

モ兵器ヲ所持スルノ權ハ例外トス

第三ニ謀判ヲ企テ或ハ政府ノ官負ニ向テ暴行脅迫シタル犯罪ニ付六ヶ月以上ノ囚獄ヲ受タル者

第四ニ免許ヲ受サル會社製造借財ニ就テ及銳炮火藥其他軍糧ノ分配ニ就テノ犯罪或ハ非道ノ書面言語ヲ以テ強ク人ヲ恐喝スルノ罪或ハ穀物ノ相場ヲ猥クニ動カシ或ハ樹木収納物植立ノ草物并竹木ノ生芽ヲ折毀スル等ノ犯罪ニ因テ處刑セラレタル者

第五ニ流浪乞食竊盜ニ因テ處刑セラレタル者
前ノ三四五節ニ記列シタル犯罪ニ因テ刑ヲ

受タル者五ヶ年ヲ出レハ猶ノ免許ヲ受ルルヲ得可シ

第七條 左ニ記列シタル輩ニモ猶ノ免許ヲ拒ム可シ

第一ニ十六歳未満ノ幼童

第二ニ十六歳ヨリ廿一歳マテノイマダ丁年

ニ至ラザル者其父母或ハ其後見人ノ収稅簿

ニ上名サレタル者ヨリノ請無キ者

第三ニ己レノ財産ヲ自由ニスルノ權ヲ剥奪

サレタル者

第四ニ「コムニユン」及ヒ「エタプリスマンピエリツク」院及ヒ病

ニ属シタル甲畑山林ノ監守人并ニ政府ノ山

林監守及監渾人

第八條 左ニ記列シタル輩ニモ亦獵ノ免許ヲ拒ム可シ

第一ニ罪ノ言渡ヲ受テ銃炮ヲ所持スルノ權ヲ剥奪サレタル者

第二ニ此律ニ因テ擬定シタル輕罪ヲ犯シ申渡サレタル輩ニツキ未タ刑ヲ受サル者

第三ニ刑期克テ未タ警察司ノ監督ヲ受ル者

第九條 開獵ノ期限内ニ一日間ノ銃獵或ハ捕獵ノ免許ヲ得タル者己レノ所有地内ハ勿論他人ノ所有地内ニ於テモ其地内ノ行獵ノ權ヲ持シタル人ノ承諾ニ依ラハ獵ヲ為スルヲ得ベシ

兔ヲ捕獲スルニ小網或ハ「フエ」

ノ地窟ニ住スル兔ヲ穿鑿セシムルニ用ユ

ヲ用ユル獵法ノ外其他ノ方法

ハ嚴禁タリ

然ルニ縣令ハ其大議事ノ議案ニ因テ獵ノ期ヲ極定セン為左ノ件々ヲ決議ス

第一ニ鶉ノ外渡鳥ヲ子ノテカサレヲ獵スルヲ及其獵法ヲ定ル事

第二ニ沼池河川ノ水鳥ヲ獵スルノ期限ヲ定ル事

第三ニ所有主及假有主即チ田畑其地面ニ於テ時期ヲ厭ハス獵リ得可キ所ノ害ヲ為ス

獸ノ種類及此律ヲ守ルノ約定ヲ極定スルヲ然ニ所有主或ハ假有主己レニ屬スル權

ヲ以テ其所有地ニ損害ヲ生スル惡獸ヲ逐ヒ
或ハ殺シ或ハ銃器ヲ用ユルトハ是例外トス
縣令ハ又左ノ件々ヲ決定ス可シ

第一ニ鳥獸ヲ獵リ取ル事ヲ預メ察ス可キ事
第二ニ害ヲ為ス惡獸ヲ獵ルトニ就テ狩犬ノ
役ヲ為サシムル事

第三ニ雪中ニ獵ヲ禁制スルト
第十條 詔令ハ輕罪ヲ確定スル為ニ監守人卿
保兵及調書人ニ任ス可キ者免ヲ極ム可シ

第二款 罪罰
第十一條 十六「フランク」ヨリ百「フランク」迄ノ罪
金ヲ出ス可キ罪名
第一ニ免許ヲ受スメ獵スル者

第二ニ他人ノ所有地ニ於テ其所有主ノ許諾
ヲ得スメ獵スル者
若シ未タ収納ヲ畢ラサル田畑ニ於テ或ハ人

家ニ接セスト雖モ隣地トノ通路ヲ塞クニ牆
壁ヲ以テ畷坊ヲ建タル地所ニ踏ミ入り獵ス
ル者

若シ狩犬其主ノ所有地内ニ於テ一獸ヲ逐ヒ
終ニ他人ノ所有地ニ到ル片ハ獵ノ輕罪ト見
做ス可ラス然ト雖モ地内ノ地内ニ於テ物ヲ

損破スルキハ本主ノ情ノ儀ヲ以テ之ヲ償フ
ハ例外トス可シ

第三ニ渡鳥ヲワサトトギ候キ徒ニ他ト水鳥雪中ノ獵狩犬
人使役ニ管シタル縣令ノ決儀或ハ物ニ損害

ヲ為ス鳥獸ノ獵リニ管シタル縣令ノ次議ニ
違犯スル者

第四ニ他人ノ所有地ニ於テ雉山一鷄及鶉ノ印
或ハクローウ正ヲ取毀ツ者

第五ニ山林監守ノ所轄ニ在ル森或ハ諸所有
地ヲ「コム」ミユシ及ヒ「エタゴ」リスマシ「ビエ」ブリツ

クノ有益トノ貸シタル時互ニ取替ハセタル
證書ノ箇條ヲ違犯シタル其借主

第十二條 五十「フ」ラシク以上二百「フ」ラシク迄
ノ罰金及ヒ其他六日以上二箇月迄ノ囚獄ノ

罪名

第一ニ禁止ノ期限内ニ獵禁ヲ犯ス者

第二ニ夜中ニ獵シ或ハ制禁ヲ獵具ヲ用ヒ或

ハ茅九條ニ記列シタル獵法ノ外他ノ方法ヲ
以テ獵スル者

第三ニ制禁ノ獵網其他ノ獵具ヲ所有シ或ハ
貯ヘ或ハ其戶外ニ運出スル者

第四ニ未タ開獵ノ布告ナキニ鳥獸ヲ賣買シ
或ハ他邦ヘ之ヲ輸出スル者

第五ニ鳥獸ノ死シ或ハ落醉ス可キ餌或ハ藥
品ヲ用イテ獵スル者

第六ニ呼鳥笛或ハ餌鳥他鳥ヲ呼ヒ網中ニ陥レシカ為
森ノ中ニ置ク所ノ籠入ノ鳥ヲ用

獵者此條ニ因テ極置サレタル罪罰ハ夜中他
人ノ所有地ニ於テ獵シ及ヒ前段茅二ニ陳述
シタル方法ノ一ニ由テ獵ヲ為ス者現在兵器

ヲ持シ或ハ隱ニ之ヲ持スルハ陪層ス可シ

若「コムミユ」ノ田畑或ハ山林監守又ハ政府或
ハ「エタブリスマン」ユ「フ」ノ山林監守輕罪ヲ犯ス
時ハ前第十一條及此條ニ因テ極置サレタ
ル罰ノ最モ重キニ依テ處ス可シ

第十三條 住家ニ近キ且ツ牆壁ヲ以テ畧域ヲ
成シタル他人ノ所有地ニ於テ其主ノ許諾ヲ
得スレバ獵リニ踏入り獵スル者ハ五十「フランク」
以上三百「フランク」迄ノ罰金ヲ科シ且ツ六日以
上三ヶ月ノ囚獄ニ處ス可シ若シ夜中ニ犯ス
セハ其犯人ハ百「フランク」以上十「フランク」迄
ノ罰金ニ處セラレ可シ且三ヶ月以上二年間
ノ囚獄ノ刑ヲ受ク可シ然ト雖モ其他ノ場合
ニ於テ本刑法條ニ於テ論ス可キ重罪アル時

ハ例外トス可シ

第十四條 前第十一條ニ極定サレタル
罪罰ハ若シ犯人再犯シ或ハ面体ヲ偽シ或ハ
偽名シ或ハ人ニ向テ暴行脅迫為ス時ハ總テ
陪層スルモ本刑法ニ於テ論決ス可キ重罪ア
ルハ例外トス可シ

前第十一條ニ擬定サレタル場合ニ於テ若犯
人前罰ニ懲リスメ再犯スル持ハ六日已上三
箇月迄ノ囚獄ニ處ス可シ

第十五條 罪ヲ犯シテヨリ十二ヶ月ノ内ニ
此律ニ於テ罪ノ言渡ヲ受シ時ハ再犯トス可
シ

第十六條 總テ新刑ノ裁判ハ獵網及其他ノ獵

具ヲ剥棄スルヲ論決シ又制禁ノ獵具ハ破
毀ノ命ヲ下ス可シ
同ク鳥銃ノ剥棄ヲ申渡ス可シ尤モ閑獵ノ時
ニ當テ獵ノ免許ヲ請タル人ノ輕罪ヲ犯シタ
ル場合ハ例外トス
若鳥銃獵網或ハ他ノ獵具ヲ剥棄サレタル時
ハ其現物ヲ納ムルカ又ハ裁判ニ因テ極リタ
ル其物品ノ價ヲ納ム可シ其價金ハ五十フラン
クヨリ下ル可カラス
若シ捨置シタル鳥銃或ハ其他ノ獵具ノ所有
主知レサル時ハ剥棄ノ其權分ノ裁判所ノ書
記ヲ没入ス若剥棄或ハ破毀ヲ成スニハ訟
書面ニ因テ令ス可シ

總ノ場合ニ於テ價金ノ高ハ裁判所ノ評價ノ
議論ニ任ス可シ

第十七條 此律或ハ本刑法ニ因テ擬定シタル
二罪以上ヲ犯ス時ハ其罪ノ最モ重キヲ擧テ
論決ス可シ

犯罪ノ訟書罪犯ノ順ヲ追テ到ル時ハ通計シ
テ論決ス可シ尤モ再犯ノ罪ハ例外トス可シ
第十八條 此律ニ因テ擬定サレタル輕罪ノ申
渡ニ於テ裁判官ハ其犯人ニ一時ノ獵ノ免許
ヲ得ルノ權ヲ剥棄スルヲ得尤モ五年間ヲ
出ツ可ラス

第十九條 前第十條ニ陳述シタル罰金ノ省免
高ヲ其他高ヨリ引除ク可シ

右引除キ残り高ハ其違犯シタル所ノ「コム」ニ
ユシニ收入ス可シ

第二十條 刑法第百六十三條ハ此律ニ因テ
擬定シタル輕罪ニハ當テ行フ可ラス

第三款

○ 訴訟及裁判

第二十一條 此律ニ因テ擬定シタル輕罪ノ訟
書ノ報知ニ因テ証實シ或ハ若依ル可キ訟書
ノ報知ナキ時ハ証人ヲ呼出シテ証實ト為
ス可シ

第二十二條

邑長及其副官（即チ副官ニシテ）警察士（即チ警察官ニシテ）官マレシヤ

ル、デ、ロ、ジ、（即チ）備（即チ）装（即チ）ヲ（即チ）巡（即チ）行（即チ）ニ（即チ）付（即チ）宿（即チ）陳（即チ）ノ（即チ）郷保兵山

林監守監渙人甲園監守ガルド、アスセルマン

テ、（即チ）デ、パ、ル、チ、キ、ユ、リ、エ、（即チ）守（即チ）ヲ（即チ）民（即チ）ノ（即チ）代（即チ）監（即チ）ノ（即チ）訟書ハ

及対ノ吟味ニ至テモ証實ヲ表ス可シ

第二十三條

間稅及「ヲ」クトロ（即チ）田（即チ）舎（即チ）ヨ（即チ）リ（即チ）市（即チ）内（即チ）

ノ費稅ヲ司トル役負ノ訟書ハ己レノ權限ニ於

テ前第四條ノ第一節ニ因テ擬定サレタル輕罪ヲ吟味シ且証定スル時ハ及却ノ吟味ニ至ルニ証実ヲ表ス可シ

第二十四條 輕罪ヲ犯シ二十四字間ニ監守人ノ訟書其犯人ノ住居シタルコト又ハ其罪犯セシコト又ハ其代負或ハ邑長又ハ其副役ノ面前ニ於テ訟書人ニ因テ誓實サレサル時ハ其訟書用ヲ為サズ

第二十五條 若シ犯人面体ヲ偽リ姓名ヲ知ラシムル事ヲ忌ミテ其住家知レサル時ハ直ニ邑長或ハ治安裁判官ノ前ニ誘キ而テ其人ノ来由ヲ知ル可シ

第二十六條 此律ニ因テ擬定サレタル總ノ輕罪ハ目代官目代官己レノ役目ニ對シテ許フ可シ然レ治罪法「コード」ノ第百八十二條ニ因テ被犯人ニ許諾サレタル法ニハ相抵觸スルヲ無カシ

然ト虫モ他人ノ所有地ニ於テ其主ノ承諾ヲ得スノ獵ヲ成シ又前第二條ノ文章ノ如ク壁牆内ニテ罪ヲ犯シ及一ノ人家ニ近キ或ハ未タ収納セサル田畑ニ於テ輕罪ヲ犯ス凡被犯人ヨリ訟告セサレハ目代官職掌ニ對シ許訟シコレヲ取扱フヲ得ス

第二十七條 一時二罪以上ノ獵罪ヲ犯ス者ハ其損失ト罰金トヲ通算レテ出サレム

第二十八條 未夕結縁セサル若輩及其同居ノ
幼童或ハ下僕或ハ附属獵ノ輕罪ヲ犯ス時ハ
其父母其後見人其雇主或ハ其小頭總テ引請
入タル可シ

此引請ハ民法才子三百八十四條ニ從テ計ラ
ハル可シ且ツ損失ノ償ノミヲ為サシメ決テ
禁錮ノ刑ニ行フヲ得ス

第二十九條 此律ニ擬定サレタル輕罪ニ関シ
タル總テノ事件ハ輕罪ヲ犯シタル日ヨリ算
シテ三ヶ月ヲ期限トメ採奉ス可シ

第四款

〇一般ノ定則

第三十條 獵權ノ行ニ關係シタル此律則ハ帝

王ノ所有地ニ布行ス可ラス若其所有地ニ於
テ輕罪ヲ犯ス時ハ才二款三款ノ例ニ因テ訟
告シ且罰ス可シ

第三十一條 千八百十二年才五月四日ノ布告
及子七百九十年才四月三十日ノ法律ハ廢セ
ラレタリ

此律ニ因テ規定シタル件々ニ中テ置カレタ
ル法律決斷、布告及詔令ノ此規則ニ反スル者
ハ同ク廢セリ

千八百四十五年才五月五日ノ詔令

第一條 獵ノ警察ニ於テ千八百四十四年才五
月三日決定ノ法律ニ因テ違反ノ罪ヲ証定ス
ル所ノ警察兵山林監守田圃監守ガルド、アセ

ルマインテール及ヒ平民ニ許諾シタル宥免ハ左
ノ如ク定ム

○ハフランク

才十一条ニ因リ

擬定サレタル輕

罪ノ宥免

○十五フランク

才十二余及ヒ才

十三余中ノ才節

ニ因テ擬定サレ

タル輕罪ノ宥免

○二十五フランク

才十三余中ノ才

二節ニ因テ擬定

サレタル輕罪ノ

宥免

才二條 宥免ハ罰金ノ申渡シ毎ニ許諾セラル

可シ其宥免ハ録事役レスクレールドワシシヨリゲストルシ當時ノ方法及勘定

規則ニ因テ渡サル可シ

才四條 輕罪ヲ証定シ且訟書ヲ調成スルニ教

多ノ役負合集シ尽カスルト雖モ唯一ノ宥免

ノ外許諾ス可ラス

魚獵規則

○魚獵總ヲ云河川等ノ

千八百二十九年第四月十五日決定

ノ法律

○第一卷 魚獵ノ權

第一條 魚獵ノ權ハ政府ノ所益トシテ左ノ場所

ニ於テ施行セラル可シ

第一ニ 政府或ハ其私有主ノ費ニテ修築等

ヲ為ス總テノ河川、堀割及舸符等ヲ用ヒテ

浮航ス可キ堀ニ於テ

第二ニ 常ニ澳舟ニテ隨意ニ航通ス可キ河川ノ

分水ヲ受ケ且政府ノ費ニテ修築スル潘曲

池及小堀等ニ於テ

然レ人民ノ所有地内ニ從來現存シ又ハ向

後鑿ル可キ堀割及小堀等ノ修築ノ費其所
有主ヨリ出ルモノハ此限ニ非ラス

第二條 前條ニ記列シタル川河及堀割ヨリ他
ノ川及堀割ニ於テハ其岸頭ノ所有主ハ流ノ
中央ヨリ割テ其岸頭マテノ間ニ各自魚獵ノ
權ヲ持ス可シ但シ所或ハ仮有ノ名目證券ニ
於テ反對ノ權アル者ハ此例ニテラス

第三條 法律ノ「ビエルト」ス法律大簿編輯ニ編加サ
レタル詔令於テ河川等ノ便不便ヲ検査シ何
処ヨリ何処迄ヲ河及川ノ部分トシ或ハ前茅
一條ノ前茅二節ニ著記シタル堀割等ノ部
分ヲ極定ス且魚獵ノ權ハ政府ノ所益トシ施
行セララル可シ

又此詔令ハ海ニ流ヲ通シタル河川ニ於テ川
澳ト海澳トヲ區別シ其畧域ヲ定ム是等ノ境
界ハ海軍兵徵募畫區ノ法ト同シ然シ河水ト
潮水トノ点頭ニ於テ為シタル魚獵ハ川魚ノ
為ニ建設シタル警律及保有ノ規則ニ從フ可
シ

若シ川流ニ舟舸ヲ用ヒテ浮航ス可ク作り為
スカ又ハ公布サレタル場合ニ於テ魚獵ノ權
ヲ剥奪サレタル所有主ハ法律ニ於テ定タル
格法ニ從ヒ前以償金ヲ得己レニ損失ヲ受サ
ルノ權ヲ持スベシ「コールド」ノ増則中十八百六
十一年三月三十一日ノ

第四條 約定書中ノ意味違ヒ約定執行及ヒ難
見法律ヲ

賣^テニ付行政ト買主トノ間ニ生シタル^テ諍事又
 夕所有ノ權及魚獵ニ付行政又ハ其仮有人^{行政}
 ノ官吏ト被益ノ他人トノ間ニ生シタル^テ總テ
 諍事ハ三等裁判所ニ出訴シ裁判ヲ請フヘシ
 第五條 若シ舟ヲ用ヒテ浮航ス可キ川、堀割及
 其他ノ流水溝洫等ニ於テ魚獵ノ權ヲ有シタ
 ル人ノ許諾ヲ得スシテ渙スル者ハ二十^フラ
 ンクヨリ百^フラ^{ンク}迄ノ罰金且損害償金ノ
 言渡ヲ受クヘシ其他獲タル魚類ハ代金ヲ以
 テ返納セシメ且使用シタル漁網其他ノ漁具
 ヲ没収スルノ言渡ヲ受クヘシ
 然シ此律ノ第一條中第一第二節ニ記列シタ
 ル川及堀割等ニ於テ糸線ニ浮標ヲ用ヒ釣ヲ

垂ルハ魚類ノ子ヲ生殖スル時季ヲ除クノ外
 衆庶ニ許スヘシ

○第二卷 魚獵ノ行政及制度^テ

第六條 總テ滿二十五歳ニ至ラサル者ハ魚獵
 監守人ノ職ヲ勤ムルヲ得ス^{山林律第}

第七條 監漁ノ任ヲ受ケル吏員ハ己レノ居住
 ノ地ノ三等裁判所ニ於テ誓ヲ為シ且己レノ

職務ヲ施行スル^レ止諸裁判所ノ書記署ニ
 於テ其職分及既ニ誓書ヲ上録シタル以上ニ

非サレハ其職務ヲ施行スルヲ得ス
 若シ職務中己レノ居住ヲ他ノ^レツ^ル中ニ轉

スルトモ更ニ誓ヲ為スニ及ハス

第八條 魚獵監守人ハ己レノ請持場内ニ於テ
犯シタル總テ輕罪ノ責メニ任シ且自ラ確証
シタル輕罪ニ付不適切ナルキハ其犯人ノ罰
金並ニ償金ノ擔當ヲ命セラル可シ山林律第
五條見合
第九條 魚網ノ檢印トシテ監守人ノ用ユル鉄
ノ刻印ハ三等裁判所ノ書記署ニ預ケ置カル
ヘレ

○第三卷 魚獵糶賣

第十條 政府ノ所益タル魚獵ニハ糶賣ノ方法
或ハ拂^{セリ}下^シケ^ルノ方^法ヲ用ユヘシ
此拂下ケ方^法ハ既ニ糶賣ノ方^法ヲ施シ試ミ
若シ見込ト相違シ落價ニ至ラサルキニ執行
スヘシ

魚獵ノ糶賣落價ニナラサル時ハ糶賣執行ニ
付キ普ク公告ヲナシタル手續ト糶賣ノ見込
ノ價ニ適セス落價ニ至ラサリシ模様ヲ會議
ノ調書ニ具ニ記載ス可シ

第十一條 魚獵ノ糶賣執行ノ一ハ少クモ十五
日前ニ「テ」バルトマ^ンノ首府並ニ其漁場ノ河
岸最寄ノ「ユ」ンシユ^ン及ヒ其澳場アル「コ」ンシ
ユ^ンノ隣周ノ「コ」ンシユ^ン内ニ公示書ヲ貼附
ス可シ

第十二條 公ノ糶賣法ニアラサル方^法ヲ用ヒ
テ為シタル魚獵賣附ハ惣テ隱密ノ業ト見做
シ且其効ナカルヘシ

若シ糶賣ニ管係ノ官吏等之ヲ命シ又ハ行ハ
レタル時ハ一ケ年ノ澳金高ニ均シキ又ハ倍
スル罰金ニ連帶ノ言渡ヲ受リヘシ山林律見
合但シ払下ケノ方法ヲ用ヒ為シタル場合ハ
例外タルヘシ

第十三條 前廣ノ公告ブリーカシ及前第十一條ニ記シタ
タル公示書ノ貼附ヲ為サ、ル糶賣又ハ公示
書及糶賣ノ調書ニ載示シタル場所期日及時
刻ニ了ラサル他ノ場処期日時刻ニ執行シタ
ル糶賣モ亦効十カル可シ
官吏等此規則ニ違反スル片ハ一ケ年ノ魚獵
金高ノ罰金ニ連帶ノ言渡ヲ受ク可シ且買主
之イテ連累タル時ハ右ニ均キ罰金ノ言渡ヲ

受ク可シ

第十四條 糶賣執行中ニ其價ノ当否或ハ買主
及保証人ヨリ代價上納ノ了ニ付生シタル諍
事ハ糶賣會議ニ上席スル所ノ官吏ニ依テ即
時ニ處断サルヘシ

第十五條 左ノ第一第二三節ニ記載シタル輩
ハ各自又ハ他人ノ姓名ヲ借り又ハ他人ニ頼
ミ或ハ別格ノ部分トシ或ハ仲間ニ但シ或ハ
保証人トシテ糶賣買子ノ部ニ加ハルヲ得
ス

第一ニ全國ノ吏員森林監守人及兎獵監守人
並ニ己レノ職務ヲ施行スル地内ニ於テ糶
賣會合シ且其上席ノ任タル官吏及魚獵ヨ

リ収入スル金額ヲ受納スル官吏

若シ此等ノ官吏違犯シタルハ魚獵糶金

高ノ十二ノ一ヨリ少カラス四分ノ一ヨリ

多カラサル罰金ニ處シ且刑法第百七十五

条ニ記シタル入獄及償金言渡ヲ受クヘシ

第二ニ吏員^{アツク}森林監守人及魚獵監守人ノ所監

地ニ於テハ是等ノ吏員ノ父、母、宗系ノ親、姉

妹ノ輩、伯、叔、父及甥

若シ是等ノ人違犯シタル時ハ前節ニ均シ

キ罰金ニ處セララルヘシ

第三ニ「レツソル」ノ各郡ニ於テハ其「レツソル」

中ノ州會議員、三等裁判所ノ裁判官、檢職及

書記役

若シ此等ノ官吏違犯シタルハ損失アレ

ハ惣テ其償金ヲ擔當セシム

此条ノ規則ニ違背シ執行シタル糶賣ハ總

テ其効ナシトス山林律第ニ
十ニ条見合

第十六條 糶賣ノ損害トナリ、又ハ之ヲ妨乱シ

又ハ魚獵ヲ低價ニテ買ヒ得ル等ニ付惣テ隱

ニ黨ヲ組ミ或ハ漁失或ハ他人策畧ヲ用エル

者ハ刑法第百十二条ニ依テ處断サレ其他

悉皆ノ損失償金ノ言渡ノ受ク可シ

若シ隱ニ黨ヲ組ミ又ハ惣テ前節ニ記シタル

等ノ策畧ニ依リ利益ヲ得タル糶賣落價ハ其

効ナカルヘシ

第十七條「コシマシ」賣他人ヲ買取人糶ヨリ為ス何

レノ陳述ト虽モ糶賣執行ノ後十直午ニカ及
糶賣執行シタル其席ニ於テ為スニアラサレ
ハ受理スヘカラス

第十八條 定リタル期限内ニ証書ニ因テ必要
トスル保証人ヲ具備セサル買主ハ州長ノ權
斷ニ因テ落價ヲ除名シ且買主不相当ノ買方
ヲ為シタルトモ更ニ糶賣ヲ執行スルヲ公
告スヘシ

除名ヲ受タル買主ハ己レノ買ヒ得タル價ト
ノ間ニ違算生スル片ハ拂立ツル迄ハ鎖銅ノ
刑ヲ受クヘシ但シ再度ノ糶賣ニ於テ初度ノ
落價高ヨリ騰ルト虽モ初メノ買主ハ其過越
シタル高ヲ受クルトヲ得ス山林律第ニ
十餘見合

第十九條 惣テ糶賣落價ト告知サレタル以上
ハ確定タルヘシ何レノ場合ト虽モ奉價スル
トヲ得可ラス

第二十條 糶賣ノ種々ノ方法ハ王ノ詔令ニ因
テ決定サルヘシ
糶賣ハ惣テ公告等ヲ為シ且競價ニ因テ執行
スヘシ

第二十一條 買主ハ其糶賣執行ノ地ニ仮ノ住
所ヲ設置クヘシ否ラサル片ハ惣テ之ニ管係
ノ書類ハ郡ノ書記署ニ送達スヘシ十年八月
十六日

第二十二條 糶賣ノ調書ニハ「エギゼキエレヨ
シパーレ」別段執行スルヲ得ス律ヲ見ヨ

先ツ落價ノ元額ヲ拂ハサル片其拂立マテ買主及其仲間並ニ保証人ニ對シ鎖銅スルノ權ヲ記載スヘシ其他保証人ハ買主ヨリ生シタル損失償金又ハ追徴又ハ罰金ノ仕拂立マテハ鎖銅ヲ受ルテアル可シ山林律第

○第 四 卷 魚 獵 ノ 保 有 及 警 察

第 二 十 三 條 何 人 々 リ ト モ 左 ノ 規 則 ニ 循 守 セ サ ル 者 ハ 河 又 ハ 舸 筏 ヲ 用 ヒ テ 浮 航 ス ヘ キ 川 又 ハ 堀 割 溝 洫 及 流 通 ノ 場 所 ニ 於 テ 魚 獵 ヲ 為 ス ト ラ 得 ス

第 二 十 四 條 河 川 堀 割 溝 洫 等 ニ 於 テ 魚 類 ノ 行 通 ヲ 全 ク 隔 絶 ス ル 様 ノ 漁 具 ヲ 張 設 ス ル ヲ 禁

ス

若シ違犯スル者ハ五十「フ」ランク以上五百「フ」ランク迄ノ罰金ニ處シ且損失償金ヲ出サシムヘシ其他漁具ハ没収ノ上破毀セシム可シ
第 二 十 五 條 若シ漁スルニ魚類ヲ落酔セシメ或ハ落死セシムル貨物ヲ水中ニ投スル者ハ三十「フ」ランク以上三百「フ」ランク迄ノ罰金ニ處シ且一ヶ月以上三ヶ月迄ノ禁銅ニ處スヘシ

第 二 十 六 條 詔 令 ニ 於 テ 左 ノ 件 々 ヲ 決 定 ス ヘ

第 一 三 川 及 諸 流 通 ノ 場 所 等 ニ 於 テ 漁 禁 ノ 期 限 氣 候 及 刺 限

第二ニ川魚ノ増殖ヲ妨ケサル為メ制禁スヘキ魚獵ノ方法

第三ニ川魚ノ繁殖ノ妨害タル制禁スヘキ漁網及其他ノ漁具

第四ニ諸種ノ魚ヲ漁スルニ付キ諸列ニ於テ許スヘキ網等ノ寸法

第五ニ漁シ取ル可カラス且漁網ニ羅ルト虫トハハ後ニ水中ニ放ツヘキ各種ノ魚類ノ寸法

第六ニ針ニ餌ヲ用ヒテ釣ヲ垂レ或ハト針ト楊ト技ヲ以テ編ミタル漁具ニ網或ハ他ノ漁具ヲ用イテ漁ス可カラサル諸種ノ魚類

第二十七條 詔令ニ於テ禁シタル期限氣候及ハ時刻中ニ魚獵ヲ犯ス者ハ三十分ヲランク

以上二百ヲランク迄ノ罰金ニ処スヘシ

第二十八條 詔令ニ於テ制禁シタル漁具或ハ制禁ノ方法ヲ用イテ河川堀割及溝洫於テ漁シタル者ハ三十分ヲランク以上百ヲランク迄ノ罰金ニ処ス可シ

魚類ノ子ヲ生殖スル時節ニ漁罪ヲ犯ス者ハ六十ヲランク以上二百ヲランク迄ノ罰金ニ処ス可シ

第二十九條 細魚ノミヲ漁スル為メニ官許ヲ得タル網ヲ他ノ魚獵ニ用ユル者ハ前条同様ノ罰ニ処ス可シ

制禁ノ漁具ヲ己レニ居住外ニ携ユルヲ見露ハサレタル者ハ二十十分ヲランクヨリ多カラサ

ノ罰ニ処ス可シ

ハサレタル者ハ二十十分ヲランクヨリ多カラサ

ル罰金ニ処セラレ且若シ其漁具等池或ハ溜ニ於テ使用スル為メノ具ニアラサルハ之ヲ没収ス可シ

第三十條 若シ詔令ニ因テ定リタル寸法ニ相違シタル魚ヲ漁シ或ハ之ヲ它方ニ輸出シ或ハ賣ル者ハ二十「フラン」以上五十「フラン」迄ノ罰金ニ処シ且其魚ハ没収スヘシ但シ尋常ノ池或ハ溜ニ於テ漁シタル魚ハ此例ニアラス

人民ニ属シタル長堀及堀割等ノ自然ニ川ニ流通絶ヘタル者ハ池或ハ溜ト見做ス「得」ヘシ

第三十一條 若シ詔令ニ因テ公ニ告示サレタル禁止ノ魚ヲ釣リ或ハ「ナ」ス揚柳ノ枝ヲ以テ及網ヲ用イテ漁スルハ前条ニ齊シキ罰ニ処セラレヘシ

第三十二條 魚獵仮有人或ハ魚獵ノ拂下ヲ得タル人或ハ其仲間等ハ魚獵警察ノ行政官吏ヨリ刺印ヲ受サル漁網及其他ノ漁具ヲ使用スル「得」ヲ得ス

海軍兵徴募区域内ニ住スル總テノ漁夫此律ノ前第一條中第一第二節ニ記列シタル河川堀割等ニ於テ漁スルハ此条同様刺印ナキ漁網及其他ノ漁具ヲ使用スル「得」ス若シ刺印ナキ漁網或ハ其他ノ漁具ヲ使用スル者ハ一漁具毎ニ二十「フラン」ノ罰金ニ処

スヘシ

第三十三條 河川堀割ニ於テ船舸ニテ常ニ浮航スル舟長浮標役及舟子ハ仮令官許ノ漁具タリモ其舟中ニ所持スルヲ得ス若シ違犯スル者ハ五十七フランクノ罰金ニ處シ且其漁具ヲ没収スヘシ

故ニ舟舸ノ着スル場所ニ於テ臭獵警察官吏ノ来視スルキハ其舟中ノ改ヲ受クヘシ

若シ是ノ来視ヲ拒ム者ハ前同様ノ罰金ニ處所スヘシ

第三十四條 臭獵仮有人臭獵ノ拂下ヲ得タル人及惣テノ漁夫此律ノ前第一條ノ第一第二節ニ記列シタル河川等ニ於テハ其舟ヲ其漁

場ノ岸ニ着ケ漁具臭獵具及舟底マテ開キ惣テ魚獵警察官吏ノ改ヲ受クヘシ臭獵警察官吏ハ漁夫等此律ノ規則ヲ守リシヤ否ヤヲ監視スヘシ若シ官吏ノ来視ヲ拒ミ又ハ臭類ノ改ヲ肯セサル者ハ五十七フランクノ罰金ノ言渡ヲ受クヘシ

第三十五條 臭獵仮有人及臭獵拂下ヲ得タル人ハ舟舸ヲ用エキ河川堀割ニ於テハ僅ニ兩岸ノ径路ヲ用エルヲ得ヘシ若シ張網シ或ハ揚網スルニ地所ヲ要スルキハ其河頭所

有主ニ相對ヲ以テ要用ノ地所ヲ約借スヘシ

○第廿五卷 輕罪修理ノ訴告

○第一款 行政ノ名ヲ以テ為ス訴告

第三十六條 政府ハ一般ノ有益ノ為メ魚獵ノ

監督及警律ヲ執行ス

故ニ是等ノ為ニ政府ヨリ設置タル格別ノ吏

員並ニ田圃監守人 水堰司エクリエシ及司法警察官吏

ハ此律ノ第四卷中ニ定メタル魚獵輕罪ヲ其

犯レタル地ニ於テ檢査ノ上確証ヲ取り且格

別ノ吏員ハ檢職ト共ニ總テ此等ノ犯罪ノ訴

訟及修理ノ事ヲ取扱フヘシ

格別ノ吏員田圃監守人水堰司及司法警察官

吏ハ前茅五条ニ定メタル輕罪ヲモ亦々確然

証述スルヲ得且作りタル調書ヲ檢職ニ渡ス

可シ

第三十七條 政府ヨリ命シタル魚獵監守人ハ

政府ノ森林監守人ト同様ノ取扱ヲ受ヘシ

第三十八條 魚獵監守人ハ誓ヲ為シタル裁判

所アル郡ニ於テハ調書ニ依リ輕罪ヲ探索シ

且確証ヲ頭述スヘシ

第三十九條 監守人ハ制禁ノ漁網及其他ノ漁

具ヲ使用シ又夕禁止ノ魚類ヲ漁護シタル者

アルキハ沒収スルノ權ヲ有スヘシ

第四十條 監守人ハ制禁ノ漁網ヲ搜索セン為

ノ口述ヲ以テ人家ニ入ルヲ得ス

第四十一條 禁止物トモ沒収シタル漁網及其

他ノ漁具ハ何レノ場合トモ其保証ヲ取り還

付スルヲ得ス且ツコレヲ書記署ニ預ケ置
キ破毀ノ裁判アル迄ハ留メ置リヘシ

第四十二條 「カント」ノ首府ニ於テ制禁ノ魚
類ヲ剥棄シタルキハ治安裁判官又ハ其副員
ノ指揮ヲ受ケ直ニ其最奇ノ「コム」内
ニ於テ喇叭ヲ以テ人ヲ呼集シ其魚ヲ迫賣ス
又「カント」ノ首府ニ非サル場所ニ於テ剥棄
シタルキハ「コム」ノ邑長ヨリ是指揮ヲ
為ス○此等ノ指揮ハ剥棄ヲ行フタル吏員及
監守人ノ申述且此等ノ吏員ノ規則ニ準シ作
リ確証シタル調書ノ差出ニ依リ為サルヘシ
何レノ場合ニ於テモ魚類迫賣ハ收税官吏ノ
面前ニ於テ為スヘシ官吏支障アルキハ邑長

又ハ其副員又ハ警察使ノ面前ニ於テ為スヘ
シ

第四十三條 監守人ハ魚獵犯罪取押ヘニ付己
ムヲ得サルキハ直ニ兵カラ借ルノ權ヲ有
スヘシ又制禁ノ漁網及禁止ノ魚類ヲ沒収ス
ルキト魚尾時宜ニ依リ兵力ヲ借ルノ權ヲ有
スヘシ

第四十四條 監守人ハ自ラ調書ヲ作り違クモ
書上ケノ翌日「カント」ノ治安裁判官或ハ
其副員或ハ輕罪違反ノ邑或ハコレヲ確証シ
タル邑ノ邑長又ハ其副員ノ前ニ於テコレヲ
調印シ且確然証述スヘシ否ラサルキハ其調
書効ナカルヘシ

然レモ若シ監守人支障アリテ調書ニ調印シタルノミニテ自ラ調書ノ全部ヲ作りサレハ其調書ノ証述ヲ聞キ続クヘキオアサシエレバネリツク先ツ読聞カセヲ為シタル上ニテ其原旨ヲ登録スヘシ否ラサレハ其効ナカルヘシ

第四十五條 森林監守人、監守長、及騎上監守人、内一人耳ミカ又ハ臭獵監守人、及田圃監守人立會ニテ作りタル調書ハ証述ノ効ナカルヘシ

第四十六條 若シ調書中ニ漁具没収ノ事アル片ハ二十四時間ニ其寫ヲ治安裁判所ノ書記署ニ送付シ其没収物ノ代價ヲ收メ還付ヲ請フ者トノ方便ヲ設クヘシ

此没収物還付ノ期限ハ格法ニ於テ極マリタル調書ニ付確誓スルノ期限ト同シ

第四十七條 調書ハ其確誓ノ日ヨリ四日内又ハ確言スヘキトナキ片ハ調書ヲ作りタル日ヨリ四日内ニ登記セラレヘシ否ラサル片ハ其効ナカルヘシ

第四十八條 臭獵輕罪修理ノ訴ハ懲治裁判所ニ持出スヘシ

第四十九條 呼出状ニハ調書ノ寫文及ヒ調書ニ付確誓シタルヲ記載スヘシ之レヲ記載セサル片ハ其効ナカルヘシ

第五十條 臭獵ノ監視ヲ任セラレタル山林監守人ハ政府ノ名ヲ以テ為シタル事業及訴訟

ニ付總テ呼出ヲ為シ且裁判言渡書ノ寫ヲ送
達スルヲ得ヘシ但シ^{シテ}汲^{シテ}收^{シテ}執行ニ付テハ是
例ニアラス

此等ノ証書ヲ作ルニ付右監守人ニ出スヘキ
予類料ハ治安裁判官ノ門監ノ作りタル証書
ノ予類料同様金額ヲ定メラルヘシ

第五十一條 此森林行政ノ吏負ハ事件ヲ下等
裁判所ニ申述スルノ推ヲ有シ且己レノ為シ
タル局議ノ聞届ヲ得ヘシ<sup>山林律第百
七十四條</sup>

第五十二條 兎獵ノ事件ニ管シタル輕罪ハ調
書ニ因テ証批ヲ取ルヘシ
若シ調書無キハ又ハ調書等具備セサルハ
証人ニ因リ証批ヲ取ルヘシ

第五十三條 前第^{四十四條}及第^{四十七條}ノ規
定シタル都テノ格法ヲ具備シ且二人ノ吏負
又ハ二人ノ監守人ノ記作シ調印シタル調書

ハ仮令ヒ裁判言渡ヲ為シタリト雖モ是等ノ
監吏ノ確誓シタル輕罪ノ派件ニ付詐偽タル
ヲ陳述スル願書ヲ出スマテハ實証ト為ス
ヘシ

故ニ調印者中ノ一人ニ對シ及訴スルヲ法
律ニ於テ許シタル原由アルニ非レハ何レノ
証批又調書中ノ個条ニ付書キ誤等ノ申述ヲ

受理スルヲ得ス
第五十四條 前記シタル惣テノ格法ニ從ヒ作
リタル調書ハ仮令吏負又ハ監守人ニテ之ヲ

作り且ツ之レニ調印シタリト虽比同ク詐偽
タルコトヲ陳述スル願書ヲ出スマテハ充分証
ヲ為スヘシ然シ裁判言渡ニ於テ損失償金ヨ
リハ罰金高五十「フ」ランクニ至ラサル輕罪ノ場
合耳ミ

第五十五條 前ニ記列シタル格法ヲ具備シタ
ル調書ノ詐偽ノ陳述マテ充分証ヲ為サス且
ツ信用ヲ為サ、ルモノハ治罪法第百五十四
条ヲ以テ証實処断スヘシ

第五十六條 調書ニ對シテ詐偽タルコトヲ告白
セシト銘スル犯人ハ書面ヲ以テ自ラ出ルカ
又ハ公証人ノ証書ニ因テ設ケタル代人ヲ以
テ呼出狀ニ載示ノ問席前ニ裁判所ノ書記局

ニ陳述ヲ為スヘシ

裁判所ノ書記役ニテ此陳述書ヲ請取ルヘシ
是書ニハ本人又ハ代人調印セサルヘカラス
若シ調印スルヲ知ラサルキハ其旨ヲ記載ス
ヘシ問席ノ期日ニハ裁判所ニ於テ此陳述書
ヲ附与シ且少クモ八日多クモ十五日ノ期限
ヲ定ム可シ此期限内ニ犯人ハ詐偽タルコトヲ
誓述スルノ方法ヲ具備シ書記署ニ差出シ且
吟味ノ用ニ足ルヘキ証人ノ姓名身分及住所
ヲモ記シ差出スヘシ
右期限ノ終リニ至ラハ更ニ裁判所ヨリ呼出
ナクトモ出席スヘシ
若シ調書ヲ取消スヘキ事實アルキハ詐偽々

ルノ誓述ヲ受理シ法律ニ従テ処断ス可シ
詐偽タルノ誓述反對シタル場合ニ於テハ
犯人ノ誓述ヲ受理セサル旨ヲ告示シ且裁判
ニ取扱ルヘキ旨ヲ言渡スヘシ

第五十七條 欠席裁判ノ言渡ヲ受タル犯人ハ
己レノ為シタル故障ニ付閑席ニ出席スル為
メ法律ニ於テ許シタル期限内ニハ詐偽ノ陳
述ヲ為ス願書ヲ出スヲ得ヘシ山林百八

第五十八條 若シ二人以上ノ犯人ニ管シタル
調書ニ對シテ犯人ノ内一人又ハ二人以上ノ
者ヨリ詐偽ノ陳述ヲ為サ、ルモノアル片ハ
之レカ為メニ調書ハ信実ノ効ヲ為スヘシ
若シ詐偽ノ陳述ニ因リ其事件惣テノ犯人ニ

関スル片ハ是例ニ非ス

第五十九條 輕罪修理詐告中若シ犯人ヨリ所
有ノ權又ハ其他ノ物權アルコトニ付申述シタ
ル片ハ其本件ノ訴ヲ受タル裁判所ニ於テ此
偶起ノ件ヲ処断スヘシ

「正キセプロシヨシ、被告テイシ正止反訴告人ヨリ

事件ヲハ所有ノ証券ヲ所持スルカ或ハ所有
ニ均レキ証アル仮有權等ニ付原由アレハ受
理セラレ又若シ所持ノ証券又ハ確述シタル
事柄ヲ其筋ノ裁判所ニ於テ見留メ其訴ノ本
源タル事柄ニ付全ク輕罪ノ本質ヲ取消スヘ

キ片ハ受理スヘシ
罰償金ノ処断ニ至リ裁判ニ於テ短少ノ期限

ヲ定ムヘシ此期限内ニ本件ヨリ前ニ判スヘキ事件ヲ訴ヘ出タル一方ノ者ハ其諍事ニ付裁ノ裁判官ノ姓名ヲ聞キ且出訴ノ旨意ヲ弁述為スヘシ然シ罪ノ言渡ヲ為シタル場合ニ於テハ入牢ヲ命シ置キ執行ヲ延引スヘシ又罰金、追徴、償金等ハ判理結極ニ至リ裁判所ヨリ指令出ルマテハ「ケースデ、ポ」且「コンシニ」アシヨシ積金預

第六十條 兎獵監督ノ任ヲ受タル行政ノ官吏ハ行政ノ名ヲ以テ裁判ヲ控訴スルヲ得且控訴裁判所ノ審決及終決裁判ニ對シテ訴フルヲ得ヘシ然シ格別ノ允可ヲ得スシテ已レノ控訴ヲ放棄スルヲ得ス

第六十一條 裁判及控訴又ハ上告ノ審決ニ對シ訴フルヲ付行政及其官吏ニ任シタル權ハ檢職ニ委任シタル權利ト相管涉スルヲ無シ亦々假令行政或ハ其官吏ニ於テ裁判及審決ニ服心シタル場合ニ檢職ノ行フ權利トモ相管スルヲ無カルヘシ

第六十三條 兎獵ノ吏員或ハ行政ノ兎獵監督人其職務ニ居テ犯シタル輕罪及過失ニハ前条ノ規則ヲ該テ行フヘカラス故ニ是等ノ吏

負ノ犯シタルト及連累等ノ修理出訴期限ハ
治罪法ニ定タル期限ト同シ

第六十四條 輕罪ノ訴、欠席裁判、故障ヲ述ル
裁判、控訴及上告ニ付治罪法ニ定タル規則ハ
此律ニ定タル輕罪ノ訴ニ付キ該テ行ハルヘ
シト、金ヒ此第五卷ヨリ生レタル改變ニ至テ
ハ是ノ例ニアラス

第二款

魚獵借受人及手民ノ名前且其有益ニ付為

シタル訴訟

第六十五條 魚獵借受人、魚獵免状ヲ得タル人
及河頭所有主ニ損害ヲ搦タル輕罪ハ各自ノ
監守人ニテ確証セラレヘシ右監守人ハ手民
ノ森林監守人同様ニ取扱ハルヘシ

第六十六條 右等ノ監守人ノ作りタル調書ハ
訴偽ノ陳述ヲ為ス迄ハ信實ヲ証スヘシ
律林
百八十八條

第六十七條 惣テ出訴及ヒ願等ノ事ハ被益者
ノ名前ニテ為スヘシ

第六十八條 此律ノ第三十八、三十九、四十、四十
一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、及四十
七条ノ第一節、第四十九、五十二、五十九、六十二、及

六十四條 = 包含スル所ノ規則ハ平民及魚獵
借受人ノ有益 = 損失ヲ裁タル輕罪ニ付彼等
ノ名前ニテ為シタル訴ニ當テ行フヲ得ヘ
シ

○第六卷 處刑及罪ノ言渡

第六十九條 再犯ノ場合ニ於テハ其罰ヲ陪層
スヘシ

魚獵輕罪ヲ犯シ裁判ノ言渡ヲ受ケシヨリ十
ニケ月内ニ之ヲ犯ス片ハ再犯トスヘシ

第七十條 夜中ニ魚獵輕罪ヲ犯ス者ハ惣テ陪
課スヘシ

第七十一條 凡ソ損失償金ハ裁判ニ於テ言渡
ヲ為シ尋常ノ罰金ヨリ少カルヘカラス

七十二條 此律ニ因テ定メタル何レノ場合
ニ於テ若シ生シタル損害償金高二十五「フ

ンクヲ越ヘス且其事情輕ロシト認ムル片ハ
裁判所ニ於テ入獄ハ六日以下罰金ハ十六「フ

ランク以下ニ輕減スル「ヲ得ヘシ又此等ノ
罰ヲ別々ニ言渡ス「ヲ得ヘシ但シ何レノ場

合ニ於テモ誣違ノ罰ヨリ輕減スル「ヲ得ヘ
カラス

第七十三條 魚獵借受人魚獵免狀ヲ得タル人
及水岸所有主ニ損害ヲ裁タル輕罪ノ場合ニ

ハ追徴及損失償金ハ此等ノ人ニ屬スヘシ然
レ此等ノ人自ラ犯シタル輕罪一般ノ有益

ニ管スル片ハ此等ノ償金ハ政府ノ有益ニ属スヘシ且惣テ罰金及没収物等モ亦政府ノ有益ニ属スヘシ山林律第百四條

第七十四條 聒、父母、後見人、兎獵借受人、免状得タル人並ニ總テ所有主、家長、及「コムメツタシ」自己ノ代理ヲ頼ム人等ハ彼等ノ婦、幼者、後見ヲ受タル幼者、舟子、仲間及惣テ附屬ノ者ノ犯シタル兎獵輕罪ニ就テハ其償ヲ為スノ責ヲ受ヘシ但シ他人ニ對シテ申告スヘキ權利アル片ハ是例ニ非ラス
此償ノ義務ハ民法千三百八十四條ニ從テ定セララルヘシ

○第七卷 裁判執行

第一款

○行政或ハ檢職ノ訴告ニ因リ為シタル裁判執行

第七十五條 兎獵警察ノ任タル行政ノ願又ハ檢職ノ訴告ニ因リ為シタル裁判ハ原被双方ノ姓名及裁判ノ大意ヲ記載シタル抄出書ヲ以テ送達セララルヘシ

此裁判送達ヨリ故障ヲ述ルヲ及久席裁判ニ付控訴ノ期限ヲ定ムヘシ

第七十六條 兎獵輕罪ノ罰金取立ハ惣テ録事

兼カシ收稅役ニ任セララルヘシ
右録事兼收稅役ハ兎獵輕罪ニ付為シタル裁

判ヨリ生シタル追徴雜費及損失償金取立ヲ
モ任セラルヘシ

第七十七條 追徴罰金損失償金及雜費ニ管ス
ル裁判ハ^{コトハ}瑣^{トハ}銅^{トハ}ノ方法ヲ用ユルヲ得ヘシ然
シ此執行ハ犯人ニ一ト通申シ聞カシタル上
五日ノ後ニ為スヘシ

右ニ付檢載ハ録事兼收稅役ノ願ニ因リ裁判
所ノ指令ヲ執行スルノ任ヲ受タル官兵ノ役
員ニ執行ヲ請求スヘシ

第七十八條 罰金償金及其他ノ罪ノ言渡ニ就
キ瑣銅ノ言渡ヲ受タル者ハ其言渡ノ金高ヲ
拂フタルカ又ハ録事兼收稅役ノ兼引タル保
証物ヲ具備シタルカ又ハ郡ノ裁判所ニ於テ

犯人ノ所論ニ付理宜アリト公示スル迄ハ瑣
銅ヲ受クヘシ 山林律第七
百十條ニ

第七十九條 然レモ若犯人治罪法第四百二十
條ニ編入シタル方法ニ從ヒ勘定タ、サル事
ヲ辨解スル片ハ其他金錢ニ拍ル言渡ノ十五
フランクヨリ多カラサレハ十五日間ノ囚獄
ノ後免ル可シ

若言渡ノ十五「フランク」ヨリ五十「フランク」迄
ハ囚獄一ヶ月間トス可シ

右ニ演述シタル罪罰ノ言渡ヲ合シ科スルト
金ニ囚獄二ヶ月ヲ限トス

再犯スル片ハ前刑ノ囚獄ニ陪層ス可シ
注意此條ノ末節ハ千八百三十二年第四月十

七日決定ノ法律第二十五條ニ因テ改定ス
第八十條 總テノ場合ニ於テ當時繫獄ノ方法
トノ行ハレタル囚獄ハ犯人ニ處科シタル禁
錮ノ刑トハ異ナル可シ

第二款

○臭獵仮有人及平民ノ有益ニ於テ為タル
裁判ノ執行

第八十一條 臭獵仮有人免許得タル人及平民
ノ有益ニ損失ヲ撤タル輕罪收贖ニツキ刑ノ
言渡ヲ有スル裁判ハ臭獵ノ指揮監督ノ任々
ル行政ノ檢究ニテ為シタル裁判ノ如ク同格
汰ニテ其仮有人免許得タル人及平民ノ願
由テ告示シ且繫獄ノ汰ヲ以テ行フ可シ

右ノ裁判ニ因テ言渡サレタル罰金ノ請取方
ハ録事及収稅役ニ任セラレ可シ

第八十二條 平民ノ有益ニ損失ヲ掛タルヲ以
テ行政ノ檢究ノ上繫獄ノ汰ニ因テ留メ置タ
ル罪人ノ放免ハ第七十八條及第七十七九條
ノ為ニ公事ノ場合ニ於テハ右所有人等ノ手
元ニテ引当物ノ價或ハ罰人ノ拂ヒ立ノ手段
ニ付キ互ニ公事聽聞ヲ受ケ辨解立タル上ニ
非レハ行フヲ得ス

第八月

○一般ノ規則

第八十三條 臭獵ニ管シタル事ニ付キ此條ニ
因テ規定シタル事件ニ追々編入シタル法律

訟令布告議事案法令及總テノ規則ハ廢棄セ
リ
然トモモ此律ノ布告前ニ受得タル權ニ付キ
争訟ニ及フキハ此律ノ布告前ノ法律ニ因テ
裁判サル可シ

○遺則

第八十四條 第六條第十條ニ有スル制禁及于
六百六十九年法令ノ第三十一日ノ第五條ニ
有スル日出ヨリ日没迄ノ外他ノ時刻ニ澳ス
ルノ制禁ハ此律ノ第二十六條ノ文ニ由テ
流水ニ於テ澳スル時節且澳具ヲ制禁スル事
ヲ極定スル所ノ詔令ノ布告アルマテハ取行
フヲ得可シ

然レモ于六百六十九年ノ法令ノ前節ニ辭説
シタルケ條ニ違反スルキハ此律ノ規則ニ從
テ罰シ且總テノ輕罪モ布告示來ハ此律ニ擬
定ス可シ

○于八百六十五年第五月三十一日及第六
月八日決定ノ兎獵律

第一條 縣ノ大議事^{コウギ}ノ議案ヲ^{コウギ}國議院ニ於テ決
定ノ上為タル詔令ハ左ノ件々ヲ極定ス可シ
第一ニ諸魚ノ繁殖ノ為ニ終年間兎獵ヲ悉皆
制禁スヘキ河川堀割及流水ノ部分
第二ニ司法ノ吟味ノ上ニテ諸魚ノ自由ニ通
行ヲ得セシムル為ニ水堰^{ミヅノセ}ニ工セ^ル工セ^ル魚ノ道路ノ為ニ堰ノ下
部ヲ開キ設タル踏^ミ格

子ヲ構へ設ケ得可キ河川堀割及流水ノ部
分

第二條 終年間ノ漁禁ハ連年五年間ヨリ多カ
ラス而テ此制禁ハ再々改置セラレ可シ

第三條 前條ノ中テ行ヒニ因テ漁獵ノ權ヲ取
上ラレタル河岸所有主ハ其償額ヲ得ルノ權

ヲ持ス可シ其償額ハ千八百零七年第九月十
六日決定ノ律ニ從ヒ「エキスベ止」目利ノ吟味

ノ上縣ノ議事ニ因テ勘定立ラレ可シ
當時存在スル堰ニ於テ「エセ止」ヲ構へ設ケル

ニ就テノ償額ハ前條ノ格法ニ從ヒ勘定立ラ
ル可シ
第四條 千八百六十六年第九月初日示來海軍

宰相農業高法宰相及工部宰相ノ建議ニ因テ
為タル詔令ハ河漁ト海ニ流ヲ及ボレタル河

川堀割ノ中ニ於テノ海漁トハ殆ント同方法
ニ規定サル可シ

第一 諸魚ノ漁獵全ク制禁ノ時限ノ事
第二 何寸何分以上ニ非レハ漁シ取ル可ラ

サル魚ノ寸法ノ事
第五條 千八百二十九年第四月五日決定ノ法

律第二十九條ノ施行ヨリ爾來魚獵制禁ノ時
ニ當リ各縣内ニ於テ何魚トモ賣買シ持扱

ヒ或ハ輸出輸入スルノ嚴禁タリ
此規則ハ前律第三十條ニ解說シタル池或ハ

溜リニテ漁シ取リタル魚類ニハ當テ行フ可

ラス

第六條 魚獵制禁中ト魚モ生殖スル為ノ魚類ハ官ヨリ換シ及ヒ運輸スルノ權ヲ附与スルコトヲ得可シ

第七條 此律ノ第一條及第五條ノ第一節ノ規則ニ違犯シタル片ハ千八百二十九年第四月十五日決定ノ法律第二十七條ニ擬定シタル刑ヲ以テ罰ス可シ而テ其他ノ魚類ハ前律第四十二條ニ因テ前記シタル式法ニ從テ剥奪シタル上直チニ賣拂ハル可シ
左ノ場合ニ於テ違犯シタル片ハ其犯罪人ニ一層ノ罰金ヲ科シ及十日以上一ヶ月ノ禁錮ヲ言渡ス可シ

第一 千八百二十九年第四月十五日ノ法律第六十九條及第七十條ニ因テ擬定サレタル規則ニ犯シタル時

第二 落酔シ或ハ毒死シタル魚ト視定タル時

第三 舟舸或ハ馬車或ハ牛馬等ニテ魚類ヲ運漕スル時

魚類ノ搜索ハ魚獵制禁ノ時ニ當テ平人ノ住家旅亭食肆及市場等ニ於テ為ス可シ

第八條 魚獵及魚類運送ニ當シタル規則ハ魚ノ卵子及アルロシ魚種ニ當テ行フコトヲ得ヘシ

第九條 魚網ノ檢印ニ當シタル千八百二十九

年第四月十五日決定ノ法律第二十九條ノ施行ニ因テ魚ノ各種ノ魚獵ノ為ニ許ヲ受タル魚網ノ目ノ才法ヲ改ムル方法ヲ設定ス可シ

第十條 魚獵及魚類ノ賣買運漕輸出及輸入等ニ管係シタル犯罪ハ租稅官ノ役員間稅及「オクトロリー」田舎ヨリ市場ニ輸入スル酒類等ノ役員又ハ千八百二十九年第四月十五日決定ノ法律及千八百五十二年第四月九日ノ詔令ニ因テ權ヲ任セラレタル役員コレヲ吟味探索シ且証實スベシ

詔令ハ輕罪ヲ証實スル為ノ訟書ニ就テ其調書人ニ許諾サル可キ宥免ヲ極定ス此宥免ハ罰金ノ惣高ヨリ前以テ引除ケラル可シ

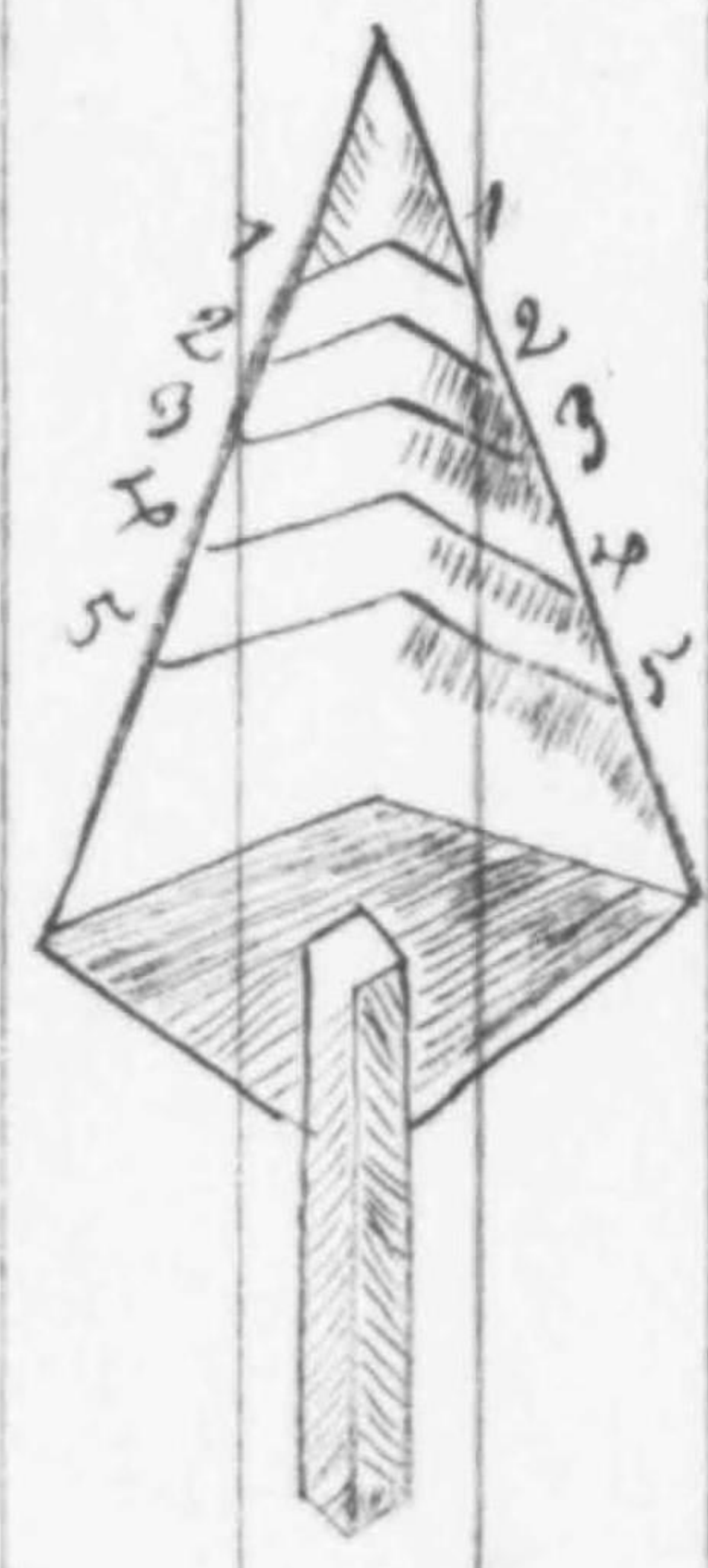
第十一條 輕罪違警罪ノ許訟及此律ニ違犯ニ

就テノ裁判ノ執行ハ千八百二十九年第四月十五日決定ノ律及千八百五十二年第四月九日ノ詔令ニ從ヒ行フ可シ

第十二條 從來ノ律則ノ此律ニ反スルモノハ廢棄セリ

○魚網ノ目ノ寸法ヲ規定シタル千八百六十五年第四月二十六日及第四月廿二日ノ詔令

第一條 網目ノ廣サ寸法ノ改ハ尤ノ圖ノ如ク木制ノ四面ニ數字ヲ以テ度ヲ附タル量器ヲ用ヒ改メ量ル可シ



右量器ハ政府ニテ製造シ且檢印サル可シ而
テ其例則ト為ス可キ量器ノ一ヲ各民事裁判
所ノ書記署ニ備ヘ置カル可シ

第二條 凡ソ網目ヲ量ルニハ網目大小ノ順序
ニ拘ハラズ差別ナク量ル可シ

○千八百六十八年第一月初月二十五日及第二月
二十七日ノ詔令

第一條 魚類ノ生殖ノ為ニ禁止ス可キ魚獵ノ
時限ハ左ノ如ク極定ス可シ

第一、 第十月二十日ヨリ第一月初月三十日迄鮭
鱒及「ラムプルデウシソクエー」魚ノ 澳ヲ制禁
ス

第二、 第四月十五日ヨリ第六月十五日迄他

ノ總テノ魚類及川海老ノ魚獵ヲ禁止ス

「ラムプルコムマシ」魚鰻及「ラムフロワ」類 鱈ノ

モ同ク禁ス然レモ河水及潮水トニ交ニ住ム
所ノ他ノ魚類ハ是例ニ非ス

前節ニ記レタル制禁ハ魚獵ノ總テノ方法及
同ク浮標付タル釣澳ニモ當テ行フ可シ

第二條 縣令ハ毎歳若過分ニ生殖スル魚種ヲ
保有為スニ制禁スルニ必要ナルキハ前述シ

タル其時限ノ孰レノ中ニカ大議事ト商議ノ
上格別ノ權斷ニ回テ例外ニ制禁ス可シ

第三條 魚獵ノ制禁期毎ニ一週間前廣ニ其初
及終ノ期日ヲ能ク知ラシムル為ニ諸邑内ニ

公告ス可シ

第四條 或人魚獵禁制ノ時ニ當テ池或ハ溜リ

ニ於テ漁シ取リタル魚類持運ヒ或ハコレヲ

賣買スル時ハ一忘其臭ノ未由ヲ辨解ス可シ

第五條 剥奪サレ且迫賣サレタル魚類ハ千八

百二十九年第四月十五日決定ノ法律ニ從ヒ

再ヒ賣物ニ出スヲ得ス

第六條 凡ソ魚獵ハ日ノ出ヨリ日没迄ヲ限ト

シ許サル可シ

然レモ川海老及鰻魚ノ漁ハ日没後及日ノ出

前ト魚モ縣令ノ決断ニ因テ極定サレタル時

刻ニ於テハ許サル可レ右ノ決断ニ因テ同ク

川海老ヲ取ル為ニ許サレタル漁具ノ常体^{寸五}及

其目ノ寸法ヲ極定ス可シ

第七條 捉通ノ寸法ノ臭網ハ時刻ヲ厭ハス水

中ニ設ケ置クヲ得然レモ日ノ出ヨリ日没

迄ノ時間ニ非レハ舉網シ或ハ張網スルヲ

得ス

第八條 魚獵ニ罹リ直キニ水中ニ於生ス可キ

魚及川海老等ニツキ極定シタル寸法ハ尤ニ

記列シタル魚ノ寸法ヨリ以下トス可シ

第一 長サ二十五「サン」ト^{九分}ニ^{我ハ寸}

鮭及鰻

第二 長サ二十五「サン」ト^{九分}ニ^{寸六}

鱒^トオンフルシワリエ^トオムフルコムモ^ト

名^ト鯉^トミエ^トカ^ト名^ト鰻^トミエ^トカ^ト名^トア^トロン^トス^ト名^ト魚^ト鮒^トカ^ト

ルト^トシ^ト名^ト魚^ト口^トツ^トト^ト名^ト魚^トラ^トム^トフ^トロ^トワ^トト^ト類^ト鮓^ト

第三 長サ拾「サン」寸メートルトル三寸ノ「ソ」ル魚
「フリ」魚及「レ」魚

第四 長サハ「ガ」寸メートルトル分ニ四寸厘六ノ川海老
右ニ記列シタル魚ノ寸法ハ總テ其目ヨリ尾ノ生ヘ口迄ヲ量ル可シ川海老ノ寸法ハ其目ヨリ木廣ノ尾先マテヲ量ル可シ

前ノ法則ハ浮標ヲ用ヒテ釣タル魚ニハ中テ行フ可ラス

第九條 魚網「ビ」ル「「ヲ」シ「エ」ト云折ニ似タル木ノ枝ヲ「ナ」ス

類エ及其他魚獵ニ使用スル具ハ水中ニ張設ケ漁レタル後其等ノ数若ヲ量ル其寸法ハ九則ニ從フ可シ

第一 鮭ヲ取ル網目ノ寸法ハ少クハ四十「ミ」

リメートルトル凡我一サ三分タル可シ

第二 鮭及川海老ヲ除クノ外大刑ノ魚ヲ漁スル網目ノ寸法ハ少クハ二十七「ミ」リメートルトル凡ハ拾ルタル可シ

第三 「グ」シヨシ魚「ロ」シ「ウ」ロシ魚「ア」ブレツト
名魚等ノ小種ノ魚ヲ漁スル網目ノ方寸ハ十「ミ」リメートルトル凡三分トス

網目ノ方寸定則ノ寸法ヨリ十分ノ一ノ差違マテハ黙居ス

第十條 惣シテ張網スルニハ流水ノ幅三分ノ二ヲ踰ユ可ラス

同岸或ハ向對シタル岸ニ於テ同時ニ敷網ヲ張ルハ少クハ其網ノ弘リノ三倍ノ距離ヲ

各ニ置ク可シ

第十一條 魚網張設シタル中毎週土曜日夕茅
六字ヨリ月曜日朝茅六字迄三十六字間ハ其
網ノ長サノ十分ノ一ヲ中程ニテ水底ヨリ少
ク凡五十五「サン」メートルトシ凡我カ一分尺程引揚
置ク可シ

第十二條 總テ曳網ハ制禁タリ然ト虫凡一人
ニテ使用シ得可キ撒網ハ是例ニ非ス
「ラセ」丸形或ハ「コレ」同上ハ同様禁止ス可シ

第十三條 尤ノ條々ハ嚴禁ス可シ

第一 曲江小堀等ニ魚類ヲ引入レ終ニ逃レ
出得サラシメサル様ニ流水中ニ何様ノ器具
ト虫モ建設ル事

第二 水堰水柵シニツキナエ自然ノ水落水門ハテエ「ク」ルシエーデ
ウニシシ製造町ニ水ヲ及「エセ」魚ノ通路ノ為ニ等ニ「十

ス」ヨコテ「パ」エーレ及「冒」等ノ漁具ヲ構ヘ附ル事
第三 浮標ヲ用ヒテ釣スルノ外他ノ漁具ヲ以

テ水堰水柵水落水門「ク」ルシエーテエシシ及
「エセ」等ノ傍ニ於テ漁シ並ニ右等建設ノ上

或ハ下三十「メ」ートル凡九丈以内ニ於テ漁スル
事

第四 水中ニ修理或ハ造作スル「」或ハ製造
所ノ休時或ハ舟舸ノ通行閑ナル時等ニ當テ

不時ニ水ヲ引落シタル川堀割流水ノ部分ニ
於テ漁スル事

第十四條 泛航ス可キ堀割及流水ノ魚獵ヲ買イテ

多^テル^ル人 奉價人ノ願出及流水堀割ノ魚獵所有
主ノ願出ニ因テ縣令ハ極タル魚獵ノ時ニ於
テ其場所ヲ取調ヘ後ニ上品ノ魚ヲ保有セン
為ニ他ノ魚類ヲ取盡ント欲シテ水業及例外
ノ魚獵ヲ許ス^トヲ得ヘシ

第十五條 「アンゼンエール^ル 師^器 裁^及 コンセイユデウ
サリユプリテール^市 中^清 潔^人 ノ^健 役^廉 等^ヲ 裁^ス ル^ル 後^勸 旨^ニ 曰^テ 縣令
權斷シテ尤ノ如ク極定ス可シ

第一 流水ニ於テ麻ヲ晒ス^トノ時限及成ル
可ク魚類ニ妨ケサル可キ晒場ノ事

第二 河流中ニ於テ製練或ハ製造所ヨリ流
シタル汚物等ノ魚類ノ害ニナル可キ物ヲ注
意レ取除ル方法ノ事

第十六條 子八百三十年第十一月十五日及子
八百四十二年第二月二十八日ノ法令チ八百
六十三年第十月十九日及子八百六十六年第一
二月七日ノ詔令並ニ魚獵ニ就テ地方ノ總テ
ノ規則等ハ削刻セリ

然レ此法令ノ規則ハ「ラニ^歐 洲^名ノ大^及「ビダ
メ^了」^是 班^牙 國^ノ 河^ニ シ^テ 其^ニ 中^テ 行^フ 可^ラ ズ
源^ハ「^ビレ^子」^山ニ在リ
此兩河ニハ別段法律及規則アリテ渾律ヲ成
ス

